1 次元/2 次元対応　Bluetooth ワイヤレススキャナー

BP-802

ユーザーマニュアル

Ver.1.0

免責事項

製品を使用する前にマニュアルをよくお読みになり、マニュアルに従って操作してください。

また今後ご使用するにあたり、このマニュアルを保管していただくことをお勧めいたします。

デバイスを分解したり、デバイスからシールラベルを取り外したりすると、製品保証が無効になります。

このマニュアルのすべての図は参考用であり、実際の製品は異なる場合があります。

製品の変更と更新に関しては、株式会社エフケイシステムは、いつでも信頼性、機能、デザインを向上させるために、
予告なくソフトウェアまたはハードウェアを変更する権利を留保します。

ここに記載されている情報は予告なしに変更されることがあります。

このマニュアルに記載されている製品には、株式会社エフケイシステムが著作権を所有するソフトウェアが含まれている場合があります。

または第三者に提供することができます。
ユーザー、法人または個人は、著作権者の書面による事前の同意なしに、そのソフトウェアの全部または一部を複製、改変、逆コンパイル、
逆アセンブル、デコード、リバースエンジニアリング、レンタル、移転、またはサブライセンス許諾してはなりません。

このマニュアルは著作権で保護されています。
本書のいかなる部分も、株式会社エフケイシステムの書面による許可なく、いかなる形でも複製、配布、または使用することはできません。

株式会社エフケイシステムは上記の記述を最終的に解釈する権利を留保します。

株式会社エフケイシステム
〒462-0063 愛知県名古屋市北区丸新町 212 番地
http://www.fksystem.co.jp

改訂履歴

バージョン	説明	日付
Ver1.0	初回リリース。	2017 年 10 月 04 日
Ver1.1	無効なホストデータに対する応答設定の追加　※FW_Ver:BS80+_V3.00.012 以上	2019 年 01 月 09 日

目次

改訂履歴 3

目次 4

章の説明 10

安全上の注意 10

第 1 はじめに 11

開封方法 11

BP-802 スキャナ 12

ボタン機能 13

BP-802 をスマートフォン/タブレットに接続する 15

LED 通知 17

BP-802 を On/Off する 18

スキャン手順 19

1D バーコードのスキャン 19

2D バーコードのスキャン 19

第 2 章システム設定 20

工場出荷時のデフォルトに戻す 20

動作モード 20

Bluetooth モード 21

Bluetooth ペアリングの削除 21

無効なホストデータに対する応答設定（Bluetooth SPP のみ） 23

USB モード 24

製品情報 26

Flash での保存データの照会/削除 26

サウンド通知 27

振動通知 28

自動/手動パワーオフ 29

製品のシリアル番号 30

タイムスタンプ 30

日付形式を設定する 30

Bluetooth HID の文字間遅延 31

Bluetooth ペアリングの削除 31

USB HID-KBW のキー間遅延 32
日付と時刻を設定する 34
USB HID のパラメータ 35
USB 国別キーボードタイプ 35
文字エンコーディング 35
ケースを変換する 35
エミュレート Alt +キーパッド 36
ファンクションキーマッピング 37
数値キーパッドをエミュレートする 37
コードページ 38
第 3 章　シンボル 39
全体設定 39
すべてのシンボルを有効/無効にする 39
1D シンボルを有効/無効にする 39
2D シンボルを有効/無効にする 39
ビデオ反転 40
Code 128 41
工場出荷時のデフォルトに戻します 41
Code 128 を有効/無効にする 41
Code 128 の長さの設定 41
GS1-128 (UCC/EAN-128) 42
工場出荷時のデフォルトに戻します 42
GS1-128 を有効/無効にする 42
AIM-128 43
工場出荷時のデフォルトに戻します 43
AIM-128 を有効/無効にする 43
AIM-128 の長さの設定 43
EAN-8 44
工場出荷時のデフォルトに戻します 44
EAN-8 を有効/無効にする 44
チェックデジットを送信 44
EAN-8 の拡張 45
EAN-13 46
工場出荷時のデフォルトに戻します 46
EAN-13 を有効/無効にする 46
チェックデジットを送信 46
アドオンコード 47

アドオンコードを必要とする 47
290 で始まる EAN-13 にアドオンコードを必要とする 48
378/379 で始まる EAN-13 にアドオンコードを必要とする 48
414/419 で始まる EAN-13 にアドオンコードを必要とする 49
434/439 で始まる EAN-13 にアドオンコードを必要とする 49
977 で始まる EAN-13 にアドオンコードを必要とする 50
978 で始まる EAN-13 にアドオンコードを必要とする 50
979 で始まる EAN-13 にアドオンコードを必要とする 51
ISSN 52
工場出荷時のデフォルトに戻します 52
ISSN を有効/無効にする 52
アドオンコード 53
アドオンコードを必要とする 53
ISBN 54
工場出荷時のデフォルトに戻します 54
ISBN を有効/無効にする 54
ISBN の形式を設定する 54
アドオンコード 55
アドオンコードを必要とする 55
UPC-E 56
工場出荷時のデフォルトに戻します 56
UPC-E を有効/無効にする 56
チェックデジットを送信 56
アドオンコード 57
アドオンコードを必要とする 57
システム文字「0」を送信する 58
UPC-E の拡張 58
UPC-A 59
工場出荷時のデフォルトに戻します 59
UPC-A を有効/無効にする 59
チェックデジットを送信 59
プリアンブル文字を送信する 59
アドオンコードを必要とする 60
Interleaved 2 of 5 61
工場出荷時のデフォルトに戻します 61
Interleaved 2 of 5 を有効/無効にする 61
Interleaved 2 of 5 の長さの設定 62
チェックデジット検証 63

ITF-14 64
ITF-6 64
Matrix 2 of 5 65
工場出荷時のデフォルトに戻します 65
Matrix 2 of 5 を有効/無効にする 65
チェックデジット検証 65
Matrix 2 of 5 の長さの設定 66
Industrial 2 of 5 67
工場出荷時のデフォルトに戻します 67
Industrial 2 of 5 を有効/無効にする 67
チェックデジット検証 67
Industrial 2 of 5 の長さの設定 68
Standard 25 (IATA 2 of 5) 69
工場出荷時のデフォルトに戻します 69
Standard 25 を有効/無効にする 69
チェックデジット検証 69
Standard 25 の長さの設定 70
Code 39 71
工場出荷時のデフォルトに戻します 71
Code 39 を有効/無効にする 71
スタート/ストップ文字を送信 71
Code 39 の長さの設定 72
チェックデジット検証 73
Code 39 Full ASCII の有効/無効 73
Code 32 を有効/無効にする 73
Code 32 プレフィックス 74
Code 32 チェックデジットを送信 74
Code 32 スタート/ストップ文字を送信 74
Codabar 75
工場出荷時のデフォルトに戻します 75
Codabar を有効/無効にする 75
チェックデジット検証 75
Codabar の長さの設定 76
スタート/ストップ文字を送信 77
スタート/ストップ文字の形式 77
Code 93 78
工場出荷時のデフォルトに戻します 78
Code 93 を有効/無効にする 78

チェックデジット検証 78
Code 93 の長さの設定 79
GS1-Databar (RSS) 80
工場出荷時のデフォルトに戻します 80
GS1-Databar を有効/無効にする 80
アプリケーション識別子"01"を送信 80
Code 11 81
工場出荷時のデフォルトに戻します 81
Code 11 を有効/無効にする 81
Code 11 の長さの設定 82
チェックデジットを送信 83
チェックデジット検証 83
Plessey 84
工場出荷時のデフォルトに戻します 84
Plessey を有効/無効にする 84
チェックデジット検証 84
Plessey の長さの設定 85
MSI-Plessey 86
工場出荷時のデフォルトに戻します 86
MSI-Plessey を有効/無効にする 86
チェックデジットを送信 86
チェックデジット検証 86
PDF 417 88
工場出荷時のデフォルトに戻します 88
PDF 417 を有効/無効にする 88
PDF 417 の長さの設定 89
PDF 417 ツインコード 90
QR コード 91
工場出荷時のデフォルトに戻します 91
QR コードを有効/無効にする 91
Micro QR 91
QR コードの長さの設定 92
QR ツインコード 93
Data Matrix 94
工場出荷時のデフォルトに戻します 94
Data Matrix を有効/無効にする 94
長方形のバーコード 94
ミラーイメージ 94

Data Matrix の長さの設定 95
Data Matrix ツインコード 96
Chinese Sensible Code 97
工場出荷時のデフォルトに戻します 97
Chinese Sensible Code を有効/無効にする 97
Chinese Sensible Code の長さの設定 98
第 4 章 プレフィックス＆サフィックス 99
プレフィックスシーケンス 99
Custom プレフィックス 100
Custom プレフィックスを有効/無効にする 100
Custom プレフィックスの設定 100
AIM ID プレフィックス 101
Code ID プレフィックス 102
すべての Code ID をデフォルトに戻します 102
Code ID の変更 102
Custom サフィックス 106
Custom サフィックスを有効/無効にする 106
Custom サフィックスの設定 106
終了文字サフィックス 106
終了文字サフィックスを有効/無効にする 107
終了文字サフィックスの設定 108
第 5 章 スキャン設定 109
デコード領域 109
全領域デコード 109
特定エリアデコード 109
デコード領域を指定する 110
付録 112
工場出荷時のデフォルト表 112
数字バーコード 119
バーコードの保存/取り消し 121
AIM ID テーブル 122
コード ID テーブル 124
ASCII テーブル 125
ASCII ファンクションキーマッピングテーブル 129

このマニュアルでは、BP-802 バーコードスキャナ（以下、「BP-802」または「スキャナ」と呼ぶ）のセットアップおよび使用に関する詳細な手順を説明しています。

章の説明

第 1 章 「はじめに」

スキャナーを初めて起動する方法について

第 2 章 システム設定

バーコードプログラミングの手順と、システムパラメータの設定方法について

第 3 章 シンボル

互換性のあるすべてのシンボルをリストし、関連するパラメータを設定する方法について

第 4 章 プレフィックス＆サフィックス

プレフィックスとサフィックスを使用してスキャンしたデータをカスタマイズする方法について

付録

出荷時のデフォルトテーブルとよく使用されるプログラミング用バーコードを記載しています

安全上の注意

取扱説明書をよく読み、正しくお使いください。

この取扱説明書に記載されている安全上の注意を守らずに、怪我や破損などの損害が発生した場合、

当社は一切の責任を負いません。

- ✧ 直射日光の当たる場所など、高温になる場所にスキャナを置かないでください。
- ✧ 湿度の高い場所や急激な温度変化のある環境でスキャナを使用しないでください。
- ✧ 充電式バッテリは本体に内蔵されているため、交換することはできません。
- ✧ 充電式バッテリは決して取り出さないでください。充電式電池のケースを破損すると、爆発や火災の原因となることがあります。

第 1 はじめに

BP-802 は、さまざまなニーズを満たす 1D/2D スキャンエンジンを搭載したワイヤレスポケットスキャナです。

それは、忙しいまたは限定された作業場のための素晴らしいスペースセーバーです。

また、Bluetooth HID または SPP または BLE 通信によって iOS、Android、および Windows デバイスをサポートします。

この章には、BP-802 の図解が含まれています。

手元にスキャナを置いている場合は、このマニュアルをよくお読みください。

この章は、通常のユーザー、保守スタッフ、およびソフトウェア開発者向けに書かれています。

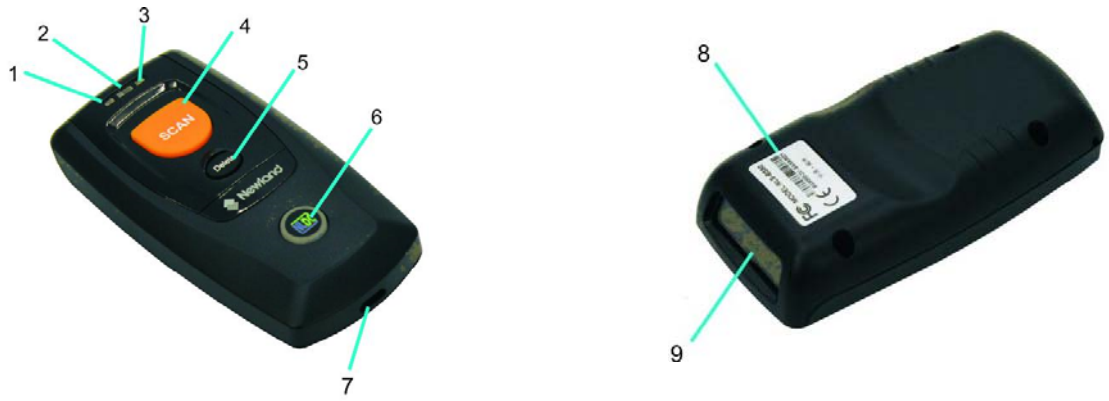
開封方法

パッケージを開き、スキャナとアクセサリーを取り出します。

梱包リストのすべてが存在し、損なわれていないことを確認してください。

製品に破損や欠品がある場合は、元のパッケージへ戻し、販売店にご連絡ください。

BP-802 スキャナ



1	充電/バッテリ LED	2	グッドリード LED
3	データ LED	4	スキャン/電源ボタン
5	削除/リセットボタン	6	機能ボタン/機能 LED
7	Micro USB ポート	8	製品ラベル
9	スキャンウィンドウ*		

※注意：バーコードを読み取る前に、スキャンウィンドウから保護フィルムを剥がしてください。

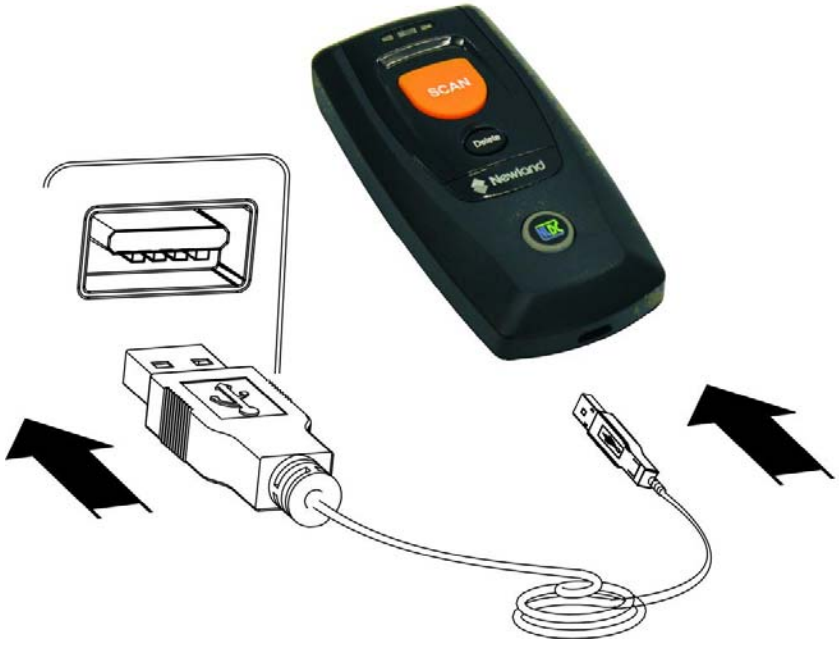
ボタン機能

スキャン/電源ボタン
*ボタンを 3 秒間押し続けると、スキャナの電源が On になります。 *押下する事でバーコードの読取りを行います。
削除/リセットボタン
*バッチ送信時、削除したいバーコードを“削除/リセットボタン”を押下してスキャンする事で、フラッシュメモリ内からデータを削除します。(i)Bluetooth モードの場合、Bluetooth 接続が確立されている必要がございます。※バッチ送信の有効が必要(ii)USB モードの場合、USB ケーブルが接続されている必要がございます。※バッチ送信の有効が必要 *ボタンを 7 秒間押し続けるとリセットされます。
機能ボタン
* Bluetooth モード時、iOS デバイスのソフトウェアキーボードを On または Off にする。 *次のいずれかの条件でデータ送信を開始するには、3 秒間ボタンを押し続けます。(i)Bluetooth モード時、一括送信が有効になっている必要がございます。(ii)USB モード時、スキャナが USB ケーブルを介して PC に接続されている必要がございます。
スキャン/電源ボタン+機能ボタン
* 2 つのボタンを同時に 3 秒間押し続けると、Bluetooth モードと USB モードが切り替わります。
削除/リセットボタン+機能ボタン
* 2 つのボタンを同時に押すと、ペアリングされた Bluetooth デバイスと Bluetooth モードのペア設定が解除され、他の Bluetooth デバイスがそのデバイスを検出できるようになります。 *緑色のグッドリード LED が点灯するまで、2 つのボタンを同時に押して、スキャナが更新ステータスに入るようにします。 注:アップデートに失敗した場合や誤ってアップデートステータスを入力した場合は、7 秒間 Delete / Reset ボタンを押し続けてスキャナをリセットする必要があります。
スキャン/電源ボタン+削除/リセットボタン
* 2 つのボタンを同時に押して、充電/バッテリ LED でバッテリ残量を確認します。 * 2 つのボタンを同時に 3 秒間押し続けると、フラッシュメモリ内のデータを全て削除します。 (i)Bluetooth モードの場合、Bluetooth 接続が確立されている必要がございます。※Batch Transmission & Require Data Transmission Confirmation が有効になっている必要が有ります。。または(ii)USB モードが有効な場合、パッチ伝送,USB 時のフラッシュメモリ内のデータを全て削除します。※設定が“データ受信確認”になっている必要があります。

注意:アップデートに失敗した場合や誤ってアップデートステータスを入力した場合、SCAN ボタンを押しても光が出なくなってしまった場合などには、SCAN ボタンと Delete/Reset ボタンを再起動するまで押し続けてスキャナをリセットする必要があります。

・バッテリーの充電

下記のように、Micro USB ケーブルでホスト機器と接続してスキャナを充電してください。



注：バッテリーの残量が少なくなると、スキャナの故障や誤動作の原因となります。

最初に使用する前に、バッテリを 3～4 時間充電してください。

BP-802 をスマートフォン/タブレットに接続する

1. スキャナの赤いファンクション LED が点灯している場合は、Scan / Power ボタンと Function ボタンを同時に 3 秒間押し続けるか、「Bluetooth モード」をスキャンして Bluetooth モードに切り替えます。

   スキャナから既存のペアリング情報を削除する場合は、Delete / Reset ボタンと Function ボタンを同時に押し続けるか、「Delete Bluetooth ペアリング」をスキャンしてください。

Bluetooth モード

Delete Bluetooth ペアリング

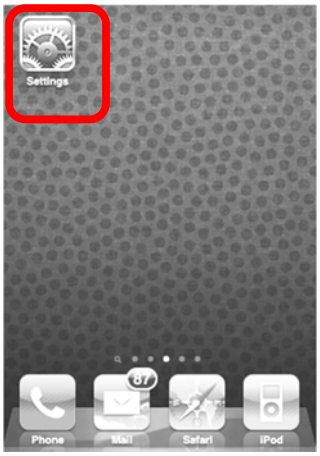
2. スマートフォン/タブレットの省電力モードをオフにします。
3. 接続するプロファイルを以下のバーコードをスキャンしてください。＜＞がデフォルト設定です。

＜HID＞ (USB キーボード)

SPP (USB シリアル)

Bluetooth 接続方法（例　iPhone）

(1)「設定」をクリックします。

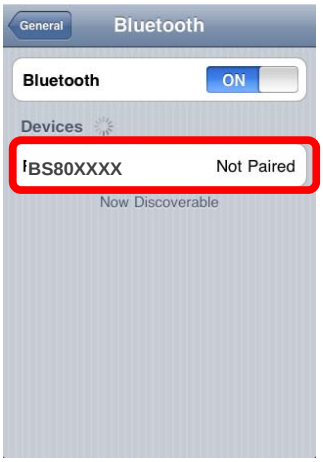


(2)「一般」をクリックします。

(3)「Bluetooth」をクリックします。

(4) Bluetooth を ON にすると、接続可能な機器が検索されます。

(5)「BS80XXXX」を選択します。



(6)　"接続済み"と表示されたら接続完了です。

6. 接続が完了すると、スキャナの青いファンクション LED が点灯します。

7. ワードパッドファイルまたは相対 APP を使用する前に、デバイスのキーボード言語を英語に設定してください。次に、現在のカーソル位置の前にバーコードとバーコードデータをスキャンします。データをスマートフォン/タブレットに送信できない場合は、Restore Factory Defaults バーコード（第 2 章を参照）をスキャンしてください。

注：他のプロファイルを持つ他の Bluetooth デバイスについては、製品がテストされる前に接続を保証することはできません。製品の通信速度と範囲は、接続されている製品とデバイスの間の障害や電波の状態によって異なる場合があります。ホストデバイスの状態は、スキャナの通信速度と範囲にも影響する可能性があります。

LED 通知

充電/バッテリ LED	
赤 LED が点灯	充電中
緑 LED が点灯	充電完了
赤と緑の LED が交互に点滅する	バッテリが見つかりません
赤 LED が点滅	バッテリ低下警告
スキャナが On の場合、Scan / Power ボタンと Delete / Reset ボタンを同時に 3 秒間押すと、充電/バッテリ LED でバッテリレベルが表示されます。	
緑 LED が点灯	バッテリ残量が充分
赤と緑の LED が点灯	バッテリ残量が中程度
赤 LED が点灯	バッテリ残量が少ない

バッテリ電圧が低すぎると、赤色の充電/バッテリ LED が点滅してビープ音が鳴ります。スキャナが強制的にシャットダウンする直前に充電してください。シャットダウンするときは、完全に充電してから再度 On にしてください。

グッドリード LED	
緑の LED が点滅する	グッドリード
データ LED	
赤 LED が点滅	フラッシュメモリにデータがあります
赤 LED が点灯	フラッシュメモリにデータがありません
ファンクション LED	
長い Off の状態で青 LED がゆっくりと点滅する	Bluetooth モードは有効になっていますが、Bluetooth 接続がされておらず、BS80 は検出できません。
長い On の状態で青 LED がゆっくりと点滅する	Bluetooth モードは有効ですが、Bluetooth 接続は確立されず、BS80 は検出可能です。
青 LED が点灯	Bluetooth 接続が確立されました。
青 LED が素早く点滅する	進行中の Bluetooth 経由のデータ送信。
赤 LED が点灯	USB モードが有効になっています。
赤 LED が素早く点滅する	進行中の USB 経由のデータ送信。

BP-802 を On/Off する

スキャナの電源を入れる

スキャン/電源ボタンを 3 秒間押します。

スキャナの電源を切る

初期設定では、何も操作されていないと 30 分で自動的に電源が OFF になります。電源が OFF になるまでの時間は設定で変更が可能です。

詳細は、第 2 章の「自動/手動パワーオフ」を参照してください。

スキャン手順

1D バーコードのスキャン

下図のように、スキャン角度（バーコードを垂直方向に読み取らないでください）またはバーコードとスキャナー間の距離を調整して、スキャンラインの長さがバーコードの長さの約 8 倍になるようにします。

Right	Wrong

2D バーコードのスキャン

バーコードとスキャナの間のスキャン角度と距離を調整して、以下の範囲に収まるようにします。

1. スキャンラインをバーコードの中央に向けます。
2. 最適なスキャン距離：5～20cm。

第 2 章システム設定

スキャナの基本システムパラメータを設定する方法について説明します。

なお、設定バーコードは<>のものがデフォルト設定です。

工場出荷時のデフォルトに戻す

工場出荷時のデフォルトに戻す

動作モード

スキャナには、Bluetooth モードと USB モードの 2 つの動作モードがあります。これら 2 つのモードを切り替えるには、スキャン/電源ボタンとファンクションボタンを同時に 3 秒間押すか、USB モードまたは Bluetooth モードバーコードをスキャンします。

Bluetooth モード

<Bluetooth モード>

スキャナが Bluetooth モードになっているときは、下の適切なバーコードをスキャンして、希望するプロファイルを選択することができます。<>がデフォルト設定です。

<HID> (USB キーボード)

SPP (USB シリアル)

Bluetooth ペアリングの削除

Bluetooth ペアリングの削除

Bluetooth 経由のデータ転送には、同期転送、非同期転送、バッチ転送の 3 種類があります。

（1）同期送信（デフォルト）：バーコードをスキャンすると、データはスマートフォン/タブレットに直接送信されます。Bluetooth サービス範囲外の場合、スキャンしたデータは失われます。

（2）非同期転送：Bluetooth サービス圏外にいる場合、スキャンデータはフラッシュメモリに格納されます。サービス範囲に戻ると、データはスマートフォン/タブレットに自動的に送信されます。スマートフォン/タブレットがデータを受信すると、スキャナは自動的にフラッシュメモリからデータを削除します。

（3）バッチ送信：スキャンしたデータは、Bluetooth サービスの範囲に関係なく、フラッシュメモリに保存されます。次のいずれかの方法で、保存したデータをスマートフォン/タブレットに送信できます。(i) スキャナのファンクションボタンを 3 秒間押し続けます(注 :データ送信を一時停止/再開するには、ファンクションボタンを短く押します)。(ii)Transmit Stored Data バーコードをスキャンする。(iii) 対応するシリアルコマンドをスキャナに送信する（シリアルプログラミングコマンドを参照)。

＜同期転送、Bluetooth＞

非同期伝送、Bluetooth

バッチ送信、Bluetooth

Transmit Stored Data

スキャナが Bluetooth バッチモードの場合には**データの受信確認**が自動的に有効になります。

データの受信確認：スキャナは、送信後にすべての保存されたデータを保持します。これにより、データが正しく受信されたかどうかを確認し、必要なときにデータを再送信することができます。

フラッシュメモリに保存されているすべてのデータを削除するには、Scan / Power ボタンと Delete / Reset ボタンを同時に 3 秒間押し続けるか、Clear All Stored Data バーコードをスキャンしてください。

無効なホストデータに対する応答設定（Bluetooth SPP のみ）

デフォルトでは、BP-802 はホストから無効なコマンドを受信すると、エラーコマンド「$$%~ER」をホストに返送します。
スキャナからの応答を無効にする場合は、「応答無効」のバーコードをスキャンしてください。
※FW_Ver:BS80+_V3.00.012 以上からの機能です。以前のバージョンでは使用できません。

＜応答有効＞

応答無効

USB モード

USB モード

スキャナが USB モードになっているときは、下の適切なバーコードをスキャンして、目的のプロトコルを選択できます。

<USB HID>

USB COM

USB 経由のデータ伝送には、非同期伝送とバッチ伝送の 2 種類があります。

（1）非同期転送（デフォルト）: USB ケーブルでスキャナを PC に接続していない場合、スキャンデータはフラッシュメモリに格納されます。スキャナと PC を USB ケーブルで接続すると、スキャンしたデータが PC に直接送られます。

（2）バッチ伝送：スキャナーが PC に接続されているかどうかにかかわらず、スキャンされたデータはフラッシュメモリに保存されます。

以下の手順に従って、フラッシュメモリのデータを USB 経由で PC に同期させることができます。

ステップ 1：USB-COM ドライバー（Windows 用）をエフケイシステムの Web サイト・サポートページ（http://www.fksystem.co.jp/down-driver.html）からダウンロードし、PC にインストールします。

ステップ 2：スキャナを USB ケーブルで PC に接続します。両者の接続が確立すると、ビープ音が鳴ります。

ステップ 3：メモ帳または Office Word を PC で開き、カーソルが常にその中にあることを確認します。スキャナのファンクションボタンを 3 秒間押し続けるか、Transmit Stored Data バーコードをスキャンして、フラッシュメモリから PC へのデータ転送を開始します。送信が完了すると、スキャナからビープ音が鳴ります。

バッチ伝送、USB

<非同期伝送、USB>

Transmit Stored Data

次の機能は、スキャナがUSBバッチモードのときに自動的に有効になります。さらに、以下の適切なバーコードをスキャンして、USB非同期モードのこの機能を有効または無効にすることができます。

データの受信確認：スキャナは、送信後にすべての保存されたデータを保持します。これにより、データが正しく受信されたかどうかを確認し、必要なときにデータを再送信することができます。フラッシュメモリに保存されているすべてのデータを削除するには、Scan / Power ボタンと Delete / Reset ボタンを同時に3秒間押し続けるか、Clear All Stored Data バーコードをスキャンするか、対応するシリアルコマンドをスキャナに送信します。

データの受信を確認しない：保存したデータはすべて、送信後に自動的に削除されます。

＜データの受信を確認しない＞

データの受信確認

注：

1. スキャナがある動作モードから別の動作モードに切り替わると、対応する LED 通知とともにビープ音が鳴ります（詳細については、第1章の LED 通知を参照してください）
2. 上記の方法の他に、Scan / Power ボタンと Function ボタンを同時に3秒間押し続けると、Bluetooth モードと USB モードを切り替えることができます。

製品情報

Embedded Scan Engine のファームウェアバージョン

製品の製造日

製品のシリアル番号

製品のファームウェアおよびハードウェアのバージョン

Flash での保存データの照会/削除

ストアドバーコードの数を照会

Clear All Stored Data

サウンド通知

下の適切なバーコードをスキャンして、サウンド通知を On または Off にします。この機能を有効にすると、次のいずれかのイベントが発生するとビープ音が鳴ります。

1. スキャナの電源 ON・OFF
2. スキャナをリセット
3. バーコードが復号される（フラッシュメモリからバーコードデータを除去するためのグッドリードを含む）。
4. Bluetooth モードまたは USB モードへの切り替え
5. Bluetooth 経由でデータを送信失敗
6. iOS ソフトキーボードの ON・OFF
7. Bluetooth または USB 経由のバッチデータ転送を開始
8. Bluetooth または USB 経由のバッチデータ転送を中断
9. Bluetooth または USB によるバッチデータ転送が完了
10. Bluetooth デバイスとのペアリング失敗
11. スキャナとホストデバイス間の USB 接続が完了
12. スキャナとホストデバイス間の USB 接続が切れた
13. スキャナとホストデバイス間の Bluetooth 接続が完了、あるいは切れた

＜サウンド通知　ON＞

サウンド通知　OFF

振動通知

下の適切なバーコードをスキャンして、振動通知を On または Off にします。この機能を有効にすると、次のいずれかのイベントが発生するとスキャナが振動します。

1. バーコードが復号される（フラッシュメモリからバーコードデータを除去するためのグッドリードを含む）。
2. Bluetooth モードまたは USB モードに切り替え
3. iOS ソフトキーボードの ON・OFF
4. Bluetooth デバイスとのペアリング失敗
5. Bluetooth または USB 経由のバッチデータ転送が開始
6. スキャナの電源 OFF

振動通知 On

＜振動通知 Off＞

自動/手動パワーオフ

デフォルトでは、30 分間スキャナを操作しないとスキャナの電源は自動的にオフになります。この機能はバッテリ寿命を延長するのに役立ちます。

オートパワーオフタイマーの照会

「オートパワーオフタイマーの設定」をスキャンしてから、以下のいずれかのタイマーをスキャンします。

オートパワーオフタイマーの設定

5 分

10 分

20 分

<30 分>

60 分

自動 OFF なし

下のバーコードをスキャンすることで、スキャナの電源を手動で切ることができます。

電源オフ

注：電源オフバーコードがスキャンされると、長いビープ音がしてから消灯します。

製品のシリアル番号

製品のシリアル番号を送信するかどうかは、シリアル番号を有効または無効にして選択できます。

製品のシリアル番号を有効にする

＜製品シリアル番号を無効にする＞

タイムスタンプ

タイムスタンプを有効または無効にすることによって、日付と時刻を送信するかどうかを選択できます。

タイムスタンプを有効にする

＜タイムスタンプを無効にする＞

日付形式を設定する

形式 1: mm/dd/yyyy
(例: 01/23/2011)

形式 2: dd/mm/yyyy
(例: 23/01/2011)

＜形式 3: yyyy/mm/dd＞
(例: 2011/01/23)

現在の日付と時刻を照会する

Bluetooth HID の文字間遅延

適切な文字間遅延を選択して、送信中にデータが失われないようにします。このパラメータは、Bluetooth HID モードでのみ有効です。

0ms

5ms

＜15ms＞

25ms

35ms

45ms

文字間遅延の設定照会

Bluetooth ペアリングの削除

Bluetooth ペアリングの削除

USB HID-KBW のキー間遅延

キーストローク間の遅延を設定するには、「キー間遅延を設定する」をスキャンし、設定したい値のバーコードをスキャンします。

キー間遅延を設定する

＜3ms＞

8ms

13ms

18ms

23ms

28ms

33ms

38ms

43ms

48ms

53ms

58ms

63ms

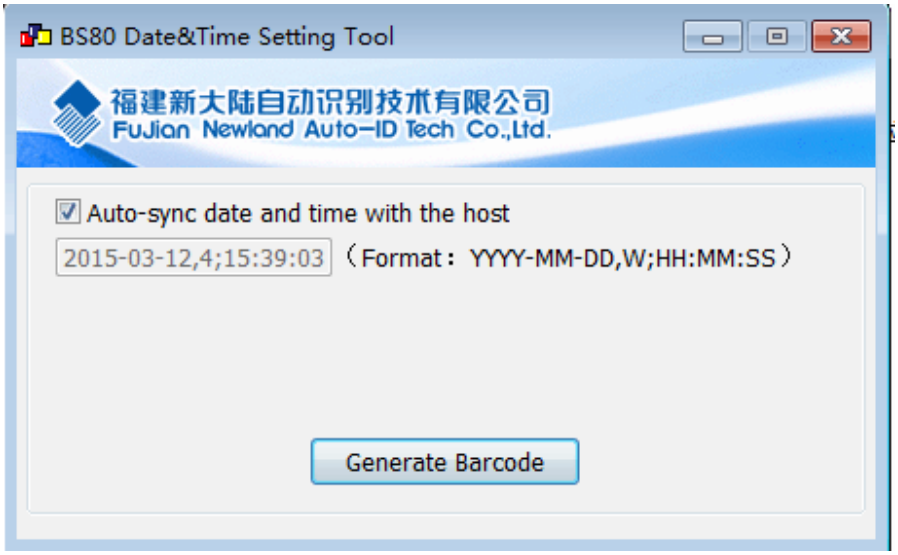
68ms

73ms

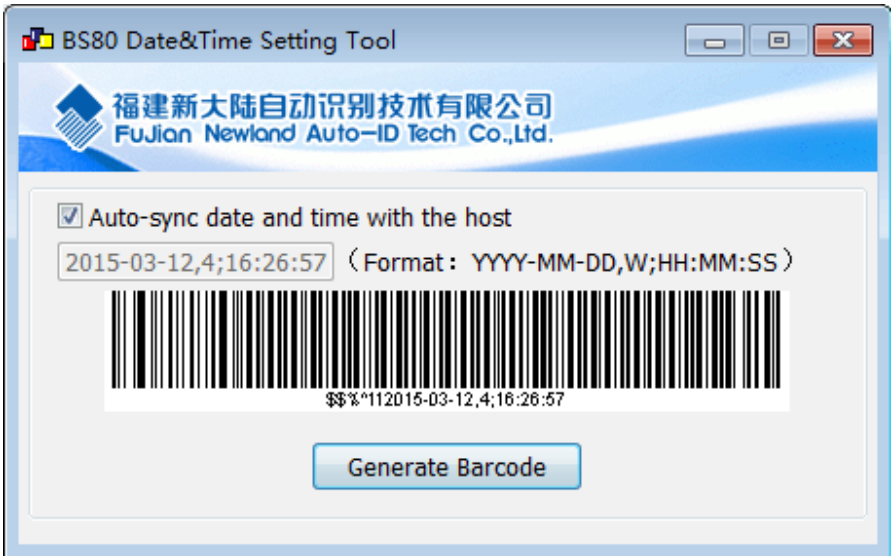
78ms

日付と時刻を設定する

ステップ 1：BP-802Setting.exe をダブルクリックし、BP-802 日時設定ツールを実行します。 次に、「ホストとの日付と時刻の自動同期」項目をチェックします。



ステップ 2：ボックス内の時間がシステムクロックと同期したら、「Generate Barcode」ボタンをクリックします。



ステップ 3：生成されたバーコードをスキャンして、スキャナの日付と時刻を設定します。

注：Windows XP または WIN7 でこのツールを実行する必要があります。

USB HID のパラメータ

USB 国別キーボードタイプ

＜英語＞

日本

文字エンコーディング

＜ISO-8859-1＞

UTF-8

ケースを変換する

＜ケース変換なし＞

大文字にすべて変換

小文字にすべて変換

大文字と小文字の反転

エミュレート Alt +キーパッド

この機能では、どのキーボードタイプが選択されていても、テンキーパッドで ASCII 文字（0x00～0xFF）を送信できます。文字の送信には複数のキーストロークエミュレーションが必要なため、この方法はあまり効率的ではありません。

次のオプションを使用できます。

- **無効**：Alt キー+キーパッドの方法で ASCII 文字は送信されません。
- **モード 1**：選択されたキーボードタイプではサポートされていないが 0x20～0xFF に該当する ASCII 文字　は Alt + Keypad の方法で送信されます。
- **モード 2**：0x20～0xFF に該当する ASCII 文字は、ALT +キーパッドの方法で送信されます。
- **モード 3**：0x00～0xFF に該当する ASCII 文字は、ALT +キーパッドの方法で送信されます。

注：ファンクションキーマッピングとモード 3 が矛盾する場合は、ファンクションキーマッピングが適用されます。

＜無効にする＞

モード 1

モード 2

モード 3

例：US キーボードを選択すると、バーコードデータ "ÆDF"（65/208/70）が以下のように送信されます：

（1）**モード 1** を有効にする：

"A" - キーストローク "A"

"Ð" - "ALT Make" + "208" + "ALT Break"

"F" - キーストローク "F"

（2）**モード 3** を有効にする：

"A" - "ALT Make" + "065" + "ALT Break"

"Ð" - "ALT Make" + "208" + "ALT Break"

"F" - "ALT Make" + "070" + "ALT Break"

ファンクションキーマッピング

ファンクションキーマッピングが有効な場合、ファンクション文字（0x00～0x1F）がキーパッド上で ASCII シーケンスとして送信されます。 詳細は、付録の ASCII ファンクションキーマッピングテーブルを参照してください。

ファンクションキーマッピングを有効にする

＜ファンクションキーマッピングを無効にする＞

例：バーコードデータ 0x16

T	ファンクションキーマッピングを有効にする	Ctrl+V
	ファンクションキーマッピングを無効にする	F1

数値キーパッドをエミュレートする

この機能を無効にすると、バーコードデータはメインキーボードのキーストロークとしてエミュレートされます。

この機能を有効にするには、数値キーパッドのエミュレートバーコードをスキャンします。番号（0-9）を送信すると、数値キーのキーストローク（s）としてエミュレートされ、“+”、“_”、“*”、“/” および “.” のような他の文字を送信しても、メインキーボードのキーストロークとしてエミュレートされます。

数値キーパッドをエミュレートする

＜数値キーパッドをエミュレートしない＞

コードページ

コードページのプログラミング機能は、より多くの国際文字をサポートするために提供されています。この機能は、ALT +キーパッドの方法で ASCII 文字が送信される場合にのみ有効です。

＜Windows 1252（ラテン I）＞

Windows 1251（キリル文字）

例 1：ISO-8859-1 でエンコードされたロシア語の適切な出力を得るようにスキャナを設定する

1. Windows 1251（キリル文字）のバーコードをスキャンします。
2. この章の「エミュレート ALT +キーパッド」からモード 3 のバーコードをスキャンします。
3. この章の文字エンコーディングから ISO-8859-1 バーコードをスキャンします。

例 2：UTF-8 でエンコードされたロシア語の適切な出力を得るようにスキャナを設定する

1. Windows 1251（キリル文字）のバーコードをスキャンします。
2. この章の「エミュレート ALT +キーパッド」からモード 3 のバーコードをスキャンします。
3. この章の文字エンコーディングから UTF-8 バーコードをスキャンします。

第 3 章　シンボル

すべてのシンボル（バーコードタイプ）には独自の属性があります。この章では、さまざまなバーコードシンボルを識別できるようにスキャナを設定するためのプログラミングバーコードについて説明します。まれに使用されるものを無効にしてスキャナの効率を上げることをお勧めします。

注：スキャナがサポートするバーコードの最大長は 3072 バイトです。

全体設定

すべてのシンボルを有効/無効にする

「すべてのシンボルを無効にする」にした場合、スキャナはプログラミングバーコード以外の非プログラミングバーコードを読み取ることはできません。

すべてのシンボルを有効にする

すべてのシンボルを無効にする

1D シンボルを有効/無効にする

「1D シンボルを無効にする」と、スキャナは 1D バーコードを読み取ることができません。

1D シンボルを有効にする

1D シンボルを無効にする

2D シンボルを有効/無効にする

「2D シンボルを無効にする」と、スキャナは 1D バーコードを読み取ることができません。

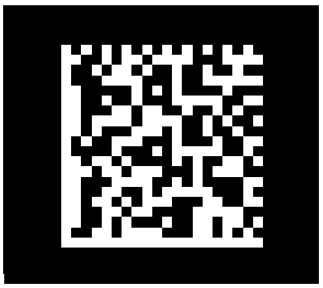
2D シンボルを有効にする

2D シンボルを無効にする

ビデオ反転

ビデオ反転は 2D バーコードにのみ適用されます。

（例）通常のバーコード



（例）逆バーコード

ビデオ反転を使用すると、スキャナは反転されたバーコードを読み取ることができます。

ビデオ反転 ON: 通常のバーコードと逆バーコードの両方を読み取ります。

ビデオ反転 OFF: 通常のバーコードのみを読み取ります。

ビデオ反転 ON

＜ビデオ反転 OFF＞

注）ビデオ反転が ON の場合、スキャナのスキャン速度はわずかに低下します。

Code 128

工場出荷時のデフォルトに戻します

Code 128 を工場出荷時のデフォルトに戻す

Code 128 を有効/無効にする

＜Code 128 を有効にする＞

Code 128 を無効にする

Code 128 の長さの設定

スキャナは、最小長と最大長の間にある長さ（両端を含む）で Code 128 バーコードをデコードするように設定できます。これを有効にするには、最小長と最大長を設定する必要があります。

最小長が最大長より長く設定されている場合、スキャナは Code 128 のバーコードのみを最小または最大長でデコードします。最小の長さが最大の長さと同じであれば、その長さの Code 128 バーコードだけがデコードされます。

最小長の設定

最大長の設定

例：8～12 文字の Code 128 のバーコードをデコードするようにスキャナを設定する

1. 「最小長の設定」をスキャンします。
2. 付録の数字バーコードから数値バーコード「8」をスキャンします。
3. 付録の「バーコードの保存/取り消し」の保存バーコードをスキャンします。
4. 「最大長の設定」をスキャンします。
5. 付録の数字バーコードから数字のバーコード 「1」と 「2」をスキャンします。
6. 付録の「保存/取り消しバーコード」の保存バーコードをスキャンします。

GS1-128 (UCC/EAN-128)

工場出荷時のデフォルトに戻します

GS1-128 を工場出荷時のデフォルトに戻す

GS1-128 を有効/無効にする

＜GS1-128 を有効にする＞

GS1-128 を無効にする

GS1-128 の長さの設定

スキャナは、最小長と最大長の間にある長さ（両端を含む）で GS1-128 バーコードをデコードするように設定できます。これを有効にするには、最小長と最大長を設定する必要があります。

最小長が最大長より長く設定されている場合、スキャナは GS1-128 のバーコードのみを最小または最大長でデコードします。最小の長さが最大の長さと同じであれば、その長さの GS1-128 バーコードだけがデコードされます。

最小長の設定

最大長の設定

例：8～12 文字の GS1-128 のバーコードをデコードするようにスキャナを設定する

1. 「最小長の設定」をスキャンします。
2. 付録の数字バーコードから数値バーコード「8」をスキャンします。
3. 付録の「バーコードの保存/取り消し」の保存バーコードをスキャンします。
4. 「最大長の設定」をスキャンします。
5. 付録の数字バーコードから数字のバーコード 「1」と 「2」をスキャンします。
6. 付録の「保存/取り消しバーコード」の保存バーコードをスキャンします。

AIM-128

工場出荷時のデフォルトに戻します

AIM-128 を工場出荷時のデフォルトに戻す

AIM-128 を有効/無効にする

＜AIM-128 を有効にする＞

AIM-128 を無効にする

AIM-128 の長さの設定

スキャナは、最小長と最大長の間にある長さ（両端を含む）で AIM-128 バーコードをデコードするように設定できます。これを有効にするには、最小長と最大長を設定する必要があります。

最小長が最大長よりも長く設定されている場合、スキャナは最小または最大長の AIM-128 バーコードのみをデコードします。 最小長が最大長と同じ場合は、その長さの AIM-128 バーコードのみがデコードされます。

最小長の設定

最大長の設定

例：8～12 文字の AIM-128 のバーコードをデコードするようにスキャナを設定する

1. 「最小長の設定」をスキャンします。
2. 付録の数字バーコードから数値バーコード「8」をスキャンします。
3. 付録の「バーコードの保存/取り消し」の保存バーコードをスキャンします。
4. 「最大長の設定」をスキャンします。
5. 付録の数字バーコードから数字のバーコード 「1」と 「2」をスキャンします。
6. 付録の「保存/取り消しバーコード」の保存バーコードをスキャンします。

EAN-8

工場出荷時のデフォルトに戻します

EAN-8 を出荷時のデフォルト設定に戻す

EAN-8 を有効/無効にする

＜EAN-8 を有効にする＞

EAN-8 を無効にする

チェックデジットを送信

EAN-8 の長さは 8 桁で、最後の数字はデータの整合性を確認するためのチェック桁です。

＜EAN-8 チェックデジットを送信する＞

EAN-8 チェックデジットを送信しない

アドオンコードを必要とする

「EAN-8 アドオンコードを必要とする」に設定した場合、スキャナはアドオンコードを含む EAN-8 バーコードのみを読み取ります。

EAN-8 アドオンコードを必要とする

＜EAN-8 アドオンコードを必要としない＞

EAN-8 バーコードは、2 桁または 5 桁のアドオンコードを拡張して新しいものを作成することができます。以下の例では、青い点線で囲まれた部分が EAN-8 のバーコードであり、赤い点線の部分はアドオンコードです。

2 桁のアドオンコードを有効にする

<2 桁のアドオンコードを無効にする>

5 桁のアドオンコードを有効にする

<5 桁のアドオンコードを無効にする>

2 桁のアドオンコードを有効にする／5 桁のアドオンコードを有効にする

スキャナは、2 桁/ 5 桁のアドオンコードがある場合とない場合の EAN-8 バーコードの組み合わせをデコードします。

2 桁のアドオンコードを無効にする／5 桁のアドオンコードを無効にする

スキャナは EAN-8 をデコードし、EAN-8 +アドオンバーコードが提示されている場合はアドオンコードを無視します。アドオンコードなしで EAN-8 バーコードをデコードすることもできます。

EAN-8 の拡張

EAN-8 ゼロ拡張を無効にする

EAN-8 バーコードをそのまま送信します。

EAN-8 ゼロ拡張を有効にする

デコードされた EAN-8 バーコードに先行する 5 つのゼロを追加して 13 桁に拡張します。

EAN-8 ゼロ拡張を有効にする

<EAN-8 ゼロ拡張を無効にする>

EAN-13

工場出荷時のデフォルトに戻します

EAN-13 を工場出荷時のデフォルトに戻す

EAN-13 を有効/無効にする

＜EAN-13 を有効にする＞

EAN-13 を無効にする

チェックデジットを送信

＜EAN-13 チェックデジットを送信する＞

EAN-13 チェックデジットを送信しない

アドオンコード

EAN-13 バーコードは、2 桁または 5 桁のアドオンコードで拡張して新しいものを作成することができます。

2 桁のアドオンコードを有効にする

<2 桁のアドオンコードを無効にする>

5 桁のアドオンコードを有効にする

<5 桁のアドオンコードを無効にする>

2 桁のアドオンコードを有効にする／5 桁のアドオンコードを有効にする

スキャナは、2 桁/ 5 桁のアドオンコードがある場合とない場合の EAN-13 バーコードの組み合わせをデコードします。

2 桁のアドオンコードを無効にする／5 桁のアドオンコードを無効にする

スキャナは EAN-13 をデコードし、EAN-13+アドオンバーコードが提示されている場合はアドオンコードを無視します。アドオンコードなしで EAN-13 バーコードをデコードすることもできます。

アドオンコードを必要とする

「EAN-13 アドオンコードを必要とする」を選択されている場合、スキャナはアドオンコードを含む EAN-13 バーコードのみを読み取ります。

EAN-13 アドオンコードを必要とする

<EAN-13 アドオンコードを必要としない>

290 で始まる EAN-13 にアドオンコードを必要とする

この設定では、「290」で始まる EAN-13 バーコードにアドオンコード（2 桁または 5 桁）を要求するようにスキャナを設定します。 以下の設定をプログラムすることができます:

アドオンコードを必要とする:「290」で始まるすべての EAN-13 バーコードは、2 桁または 5 桁のアドオンコードを持つ必要があります。その後、アドオンコードを含む EAN-13 バーコードが送信されます。必要なアドオンコードが見つからない場合、EAN-13 バーコードは破棄されます。

アドオンコードを必要としない:「アドオンコードを必要とする」を選択していて、この機能を無効にする場合は、「アドオンコードを必要としない」をスキャンします。「2 桁または 5 桁のアドオンコード」機能の選択に応じて、EAN-13 バーコードが処理されます。

<アドオンコードを必要としない>

アドオンコードを必要とする

378/379 で始まる EAN-13 にアドオンコードを必要とする

この設定では、スキャナが「378」または「379」で始まる EAN-13 バーコード上のアドオンコード（2 桁または 5 桁）を要求するようにスキャナを設定します。以下の設定をプログラムすることができます:

アドオンコードを必要とする:「378」または「379」で始まるすべての EAN-13 バーコードには、2 桁または 5 桁のアドオンコードが必要です。その後、アドオンコードを含む EAN-13 バーコードが送信されます。必要なアドオンコードが見つからない場合、EAN-13 バーコードは破棄されます。

アドオンコードを必要としない:「アドオンコードを必要とする」を選択していて、この機能を無効にする場合は、「アドオンコードを必要としない」をスキャンします。「2 桁または 5 桁のアドオンコード」機能の選択に応じて、EAN-13 バーコードが処理されます。

<アドオンコードを必要としない>

アドオンコードを必要とする

414/419 で始まる EAN-13 にアドオンコードを必要とする

この設定では、「414」または「419」で始まる EAN-13 バーコードにアドオンコード（2 桁または 5 桁）を要求するようにスキャナを設定します。以下の設定をプログラムすることができます:

アドオンコードを必要とする:「414」または「419」で始まるすべての EAN-13 バーコードには、2 桁または 5 桁のアドオンコードが必要です。その後、アドオンコードを含む EAN-13 バーコードが送信されます。必要なアドオンコードが見つからない場合、EAN-13 バーコードは破棄されます。

アドオンコードを必要としない:「アドオンコードを必要とする」を選択していて、この機能を無効にする場合は、「アドオンコードを必要としない」をスキャンします。「2 桁または 5 桁のアドオンコード」機能の選択に応じて、EAN-13 バーコードが処理されます。

<アドオンコードを必要としない>

アドオンコードを必要とする

434/439 で始まる EAN-13 にアドオンコードを必要とする

この設定では、「434」または「439」で始まる EAN-13 バーコードにアドオンコード（2 桁または 5 桁）を要求するようにスキャナを設定します。以下の設定をプログラムすることができます:

アドオンコードを必要とする:「434」または「439」で始まるすべての EAN-13 バーコードには、2 桁または 5 桁のアドオンコードが必要です。その後、アドオンコードを含む EAN-13 バーコードが送信されます。必要なアドオンコードが見つからない場合、EAN-13 バーコードは破棄されます。

アドオンコードを必要としない:「アドオンコードを必要とする」を選択していて、この機能を無効にする場合は、「アドオンコードを必要としない」をスキャンします。「2 桁または 5 桁のアドオンコード」機能の選択に応じて、EAN-13 バーコードが処理されます。

<アドオンコードを必要としない>

アドオンコードを必要とする

977 で始まる EAN-13 にアドオンコードを必要とする

この設定では、「977」で始まる EAN-13 バーコードにアドオンコード（2 桁または 5 桁）を要求するようにスキャナを設定します。 以下の設定をプログラムすることができます:

アドオンコードを必要とする:「977」で始まるすべての EAN-13 バーコードは、2 桁または 5 桁のアドオンコードを持つ必要があります。その後、アドオンコードを含む EAN-13 バーコードが送信されます。必要なアドオンコードが見つからない場合、EAN-13 バーコードは破棄されます。

アドオンコードを必要としない:「アドオンコードを必要とする」を選択していて、この機能を無効にする場合は、「アドオンコードを必要としない」をスキャンします。「2 桁または 5 桁のアドオンコード」機能の選択に応じて、EAN-13 バーコードが処理されます。

<アドオンコードを必要としない>

アドオンコードを必要とする

978 で始まる EAN-13 にアドオンコードを必要とする

この設定では、「978」で始まる EAN-13 バーコードにアドオンコード（2 桁または 5 桁）を要求するようにスキャナを設定します。 以下の設定をプログラムすることができます:

アドオンコードを必要とする:「978」で始まるすべての EAN-13 バーコードは、2 桁または 5 桁のアドオンコードを持つ必要があります。その後、アドオンコードを含む EAN-13 バーコードが送信されます。必要なアドオンコードが見つからない場合、EAN-13 バーコードは破棄されます。

アドオンコードを必要としない:「アドオンコードを必要とする」を選択していて、この機能を無効にする場合は、「アドオンコードを必要としない」をスキャンします。「2 桁または 5 桁のアドオンコード」機能の選択に応じて、EAN-13 バーコードが処理されます。

<アドオンコードを必要としない>

アドオンコードを必要とする

979 で始まる EAN-13 にアドオンコードを必要とする

この設定では、「979」で始まる EAN-13 バーコードにアドオンコード（2 桁または 5 桁）を要求するようにスキャナを設定します。 以下の設定をプログラムすることができます:

アドオンコードを必要とする:「979」で始まるすべての EAN-13 バーコードは、2 桁または 5 桁のアドオンコードを持つ必要があります。その後、アドオンコードを含む EAN-13 バーコードが送信されます。必要なアドオンコードが見つからない場合、EAN-13 バーコードは破棄されます。

アドオンコードを必要としない:「アドオンコードを必要とする」を選択していて、この機能を無効にする場合は、「アドオンコードを必要としない」をスキャンします。「2 桁または 5 桁のアドオンコード」機能の選択に応じて、EAN-13 バーコードが処理されます。

＜アドオンコードを必要としない＞

アドオンコードを必要とする

ISSN

工場出荷時のデフォルトに戻します

ISSN を工場出荷時のデフォルトに戻す

ISSN を有効/無効にする

ISSN を有効にする

＜ISSN を無効にする＞

アドオンコード

ISSN バーコードは、2 桁または 5 桁のアドオンコードで拡張して新しいものを作成することができます。

2 桁のアドオンコードを有効にする

<2 桁のアドオンコードを無効にする>

5 桁のアドオンコードを有効にする

<5 桁のアドオンコードを無効にする>

2 桁のアドオンコードを有効にする／5 桁のアドオンコードを有効にする: スキャナは、2 桁/ 5 桁のアドオンコードがある場合とない場合の ISSN バーコードの組み合わせをデコードします。

2 桁のアドオンコードを無効にする／5 桁のアドオンコードを無効にする: スキャナは ISSN をデコードし、ISSN +アドオンバーコードが提示されている場合はアドオンコードを無視します。アドオンコードなしで ISSN バーコードをデコードすることもできます。

アドオンコードを必要とする

「ISSN アドオンコードを必要とする」を選択されている場合、スキャナはアドオンコードを含む ISSN バーコードのみを読み取ります。

ISSN アドオンコードを必要とする

<ISSN アドオンコードを必要としない>

ISBN

工場出荷時のデフォルトに戻します

ISBN を工場出荷時のデフォルトに戻す

ISBN を有効/無効にする

＜ISBN を有効にする＞

ISBN を無効にする

ISBN の形式を設定する

＜ISBN-13＞

ISBN-10

アドオンコード

ISBN バーコードは、2 桁または 5 桁のアドオンコードで拡張して新しいものを作成することができます。

2 桁のアドオンコードを有効にする

<2 桁のアドオンコードを無効にする>

5 桁のアドオンコードを有効にする

<5 桁のアドオンコードを無効にする>

2 桁のアドオンコードを有効にする／5 桁のアドオンコードを有効にする: スキャナは、2 桁/ 5 桁のアドオンコードがある場合とない場合の ISBN バーコードの組み合わせをデコードします。

2 桁のアドオンコードを無効にする／5 桁のアドオンコードを無効にする: スキャナは ISBN をデコードし、ISBN +アドオンバーコードが提示されている場合はアドオンコードを無視します。アドオンコードなしで ISBN バーコードをデコードすることもできます。

アドオンコードを必要とする

「ISBN アドオンコードを必要とする」を選択されている場合、スキャナはアドオンコードを含む ISBN バーコードのみを読み取ります。

ISBN アドオンコードを必要とする

<ISBN アドオンコードを必要としない>

UPC-E

工場出荷時のデフォルトに戻します

UPC-E を工場出荷時のデフォルトに戻す

UPC-E を有効/無効にする

＜UPC-E を有効にする＞

UPC-E を無効にする

チェックデジットを送信

＜UPC-E チェックデジットを送信する＞

UPC-E チェックデジットを送信しない

アドオンコード

UPC-E バーコードは、2 桁または 5 桁のアドオンコードで拡張して新しいものを作成することができます。

2 桁のアドオンコードを有効にする

<2桁のアドオンコードを無効にする>

5 桁のアドオンコードを有効にする

<5桁のアドオンコードを無効にする>

2 桁のアドオンコードを有効にする／5 桁のアドオンコードを有効にする: スキャナは、2 桁/ 5 桁のアドオンコードがある場合とない場合の UPC-E バーコードの組み合わせをデコードします。

2 桁のアドオンコードを無効にする／5 桁のアドオンコードを無効にする: スキャナは UPC-E をデコードし、UPC-E +アドオンバーコードが提示されている場合はアドオンコードを無視します。アドオンコードなしで UPC-E バーコードをデコードすることもできます。

アドオンコードを必要とする

「UPC-E アドオンコードを必要とする」を選択されている場合、スキャナはアドオンコードを含む EAN-13 バーコードのみを読み取ります。

UPC-E アドオンコードを必要とする

<UPC-E アドオンコードを必要としない>

システム文字「0」を送信する

UPC-E バーコードの最初の文字はシステム文字「0」です。

＜システム文字「0」を送信する＞

システム文字「0」を送信しない

UPC-E の拡張

UPC-E の拡張を無効にする: UPC-E バーコードをそのまま送信します。

UPC-E の拡張を有効にする: UPC-E バーコードを延長して、UPC-A との長さを両立させます。

UPC-E の拡張を有効にする

＜UPC-E の拡張を無効にする＞

UPC-A

工場出荷時のデフォルトに戻します

UPC-A を工場出荷時のデフォルトに戻す

UPC-A を有効/無効にする

＜UPC-A を有効にする＞

UPC-A を無効にする

チェックデジットを送信

＜UPC-A チェックデジットを送信する＞

UPC-A チェックデジットを送信しない

プリアンブル文字を送信する

UPC-A バーコードの一部としてプリアンブル文字（国コードとシステム文字）を送信することができます。UPC-A プリアンブル文字をホストデバイスに送信するには、システム文字のみ送信する、システム文字と国コードを送信する（米国の場合は「0」）のいずれかを選択します。

システム文字と国コードを送信する

＜システム文字のみ送信する＞

アドオンコード

UPC-A バーコードは、2 桁または 5 桁のアドオンコードを拡張して新しいものを作成することができます。

2 桁のアドオンコードを有効にする

＜2桁のアドオンコードを無効にする＞

5 桁のアドオンコードを有効にする

＜5桁のアドオンコードを無効にする＞

2 桁のアドオンコードを有効にする／5 桁のアドオンコードを有効にする:スキャナは、2 桁/ 5 桁のアドオンコードがある場合とない場合の UPC-A バーコードの組み合わせをデコードします。

2 桁のアドオンコードを無効にする／5 桁のアドオンコードを無効にする: スキャナは UPC-A をデコードし、UPC-A +アドオンバーコードが提示されている場合はアドオンコードを無視します。アドオンコードなしで UPC-A バーコードをデコードすることもできます。

アドオンコードを必要とする

「UPC-A アドオンコードを必要とする」を選択されている場合、スキャナはアドオンコードを含む EAN-8 バーコードのみを読み取ります。

UPC-A アドオンコードを必要とする

＜UPC-A アドオンコードを必要としない＞

Interleaved 2 of 5

工場出荷時のデフォルトに戻します

Interleaved 2 of 5 を工場出荷時のデフォルトに戻す

Interleaved 2 of 5 を有効/無効にする

＜Interleaved 2 of 5 を有効にする＞

Interleaved 2 of 5 を無効にする

Interleaved 2 of 5 の長さの設定

スキャナは、最小長と最大長の間にある長さ（両端を含む）で Interleaved 2 of 5 バーコードをデコードするように設定できます。これを有効にするには、最小長と最大長を設定する必要があります。

最小長が最大長より長く設定されている場合、スキャナは最小長または最大長の Interleaved 2 of 5 バーコードのみをデコードします。最小長が最大長と同じ場合、その長さの Interleaved 2 of 5 バーコードのみがデコードされます。

最小長の設定

最大長の設定

例：8～12 文字の Interleaved 2 of 5 のバーコードをデコードするようにスキャナを設定する

1. 「最小長の設定」をスキャンします。
2. 付録の数字バーコードから数値バーコード「8」をスキャンします。
3. 付録の「バーコードの保存/取り消し」の保存バーコードをスキャンします。
4. 「最大長の設定」をスキャンします。
5. 付録の数字バーコードから数字のバーコード 「1」と 「2」をスキャンします。
6. 付録の「保存/取り消しバーコード」の保存バーコードをスキャンします。

チェックデジット検証

Interleaved 2 of 5 ではオプションで、チェックデジットを最後の数字として追加することができます。これは、データの整合性を検証するために使用される計算値です。

無効にする:スキャナは、Interleaved 2 of 5 バーコードをそのまま送信します。

検証後にチェックデジットを送信しない: スキャナは、すべての Interleaved 2 of 5 バーコードの整合性をチェックして、データがチェックデジットアルゴリズムに準拠していることを確認します。チェックを通過するバーコードは最後の桁を除いて送信されますが、失敗した場合は送信されません。

検証後にチェックデジットを送信する: スキャナは、すべての Interleaved 2 of 5 バーコードの整合性をチェックして、データがチェックデジットアルゴリズムに準拠していることを確認します。チェックを通過するバーコードは送信されますが、失敗した場合は送信されません。

＜無効にする＞

検証後にチェックデジットを送信しない

検証後にチェックデジットを送信する

ITF-14

ITF-14 は、Interleaved 2 of 5 の特殊な種類で、長さは 14 文字で、最後の文字はチェック文字です。

ITF-14 を工場出荷時のデフォルトに戻す

ITF-14 を無効にする

＜ITF-14 を有効にし、チェックデジットを送信しない＞

ITF-14 を有効にし、チェックデジット送信する

ITF-6

ITF-6 は、Interleaved 2 of 5 の特殊な種類で、長さは 6 文字で、最後の文字はチェック文字です。

ITF-6 を工場出荷時のデフォルトに戻す

＜ITF-6 を無効にする＞

ITF-6 を有効にし、チェックデジットを送信しない

ITF-6 を有効にし、チェックデジット送信する

Matrix 2 of 5

工場出荷時のデフォルトに戻します

Matrix 2 of 5 を工場出荷時のデフォルトに戻す

Matrix 2 of 5 を有効/無効にする

Matrix 2 of 5 を有効にする

＜Matrix 2 of 5 を無効にする＞

チェックデジット検証

無効にする

＜検証後にチェックデジットを送信しない＞

検証後にチェックデジットを送信する

Matrix 2 of 5 の長さの設定

スキャナは、最小長と最大長の間にある長さ（両端を含む）で Matrix 2 of 5 バーコードをデコードするように設定できます。これを達成するには、最小長と最大長を設定する必要があります。

最小長が最大長より長く設定されている場合、スキャナは最小長または最大長の Matrix 2 of 5 バーコードのみをデコードします。最小長が最大長と同じ場合、その長さの Matrix 2 of 5 バーコードのみがデコードされます。

最小長の設定

最大長の設定

例：8～12 文字の Matrix 2 of 5 のバーコードをデコードするようにスキャナを設定する

1. 「最小長の設定」をスキャンします。
2. 付録の数字バーコードから数値バーコード「8」をスキャンします。
3. 付録の「バーコードの保存/取り消し」の保存バーコードをスキャンします。
4. 「最大長の設定」をスキャンします。
5. 付録の数字バーコードから数字のバーコード 「1」と 「2」をスキャンします。
6. 付録の「保存/取り消しバーコード」の保存バーコードをスキャンします。

Industrial 2 of 5

工場出荷時のデフォルトに戻します

Industrial 2 of 5 を工場出荷時のデフォルトに戻す

Industrial 2 of 5 を有効/無効にする

＜Industrial 2 of 5 を有効にする＞

Industrial 2 of 5 を無効にする

チェックデジット検証

＜無効にする＞

検証後にチェックデジットを送信する

検証後にチェックデジットを送信しない

Industrial 2 of 5 の長さの設定

スキャナは、最小長と最大長の間にある長さ（両端を含む）で Industrial 2 of 5 バーコードをデコードするように設定できます。これを有効にするには、最小長と最大長を設定する必要があります。

最小長が最大長より長く設定されている場合、スキャナは Industrial 2 of 5 のバーコードのみを最小または最大長でデコードします。最小の長さが最大の長さと同じであれば、その長さの Industrial 2 of 5 バーコードだけがデコードされます。

最小長の設定

最大長の設定

例：8～12 文字の Industrial 2 of 5 のバーコードをデコードするようにスキャナを設定する

1. 「最小長の設定」をスキャンします。
2. 付録の数字バーコードから数値バーコード「8」をスキャンします。
3. 付録の「バーコードの保存/取り消し」の保存バーコードをスキャンします。
4. 「最大長の設定」をスキャンします。
5. 付録の数字バーコードから数字のバーコード 「1」と 「2」をスキャンします。
6. 付録の「保存/取り消しバーコード」の保存バーコードをスキャンします。

Standard 25 (IATA 2 of 5)

工場出荷時のデフォルトに戻します

Standard 25 を工場出荷時のデフォルトに戻す

Standard 25 を有効/無効にする

＜Standard 25 を有効にする＞

Standard 25 を無効にする

チェックデジット検証

＜無効にする＞

検証後にチェックデジットを送信する

検証後にチェックデジットを送信しない

Standard 25 の長さの設定

スキャナは、最小長と最大長の間にある長さ（両端を含む）で Standard 25 バーコードをデコードするように設定できます。これを有効にするには、最小長と最大長を設定する必要があります。

最小長が最大長より長く設定されている場合、スキャナは最小長または最大長の Standard 25 バーコードのみをデコードします。最小長が最大長と同じ場合、その長さの Standard 25 バーコードのみがデコードされます。

最小長の設定

最大長の設定

例：8～12 文字の Standard 25 のバーコードをデコードするようにスキャナを設定する

1. 「最小長の設定」をスキャンします。
2. 付録の数字バーコードから数値バーコード「8」をスキャンします。
3. 付録の「バーコードの保存/取り消し」の保存バーコードをスキャンします。
4. 「最大長の設定」をスキャンします。
5. 付録の数字バーコードから数字のバーコード 「1」と 「2」をスキャンします。
6. 付録の「保存/取り消しバーコード」の保存バーコードをスキャンします。

Code 39

工場出荷時のデフォルトに戻します

Code 39 を工場出荷時のデフォルトに戻す

Code 39 を有効/無効にする

＜Code 39 を有効にする＞

Code 39 を無効にする

スタート/ストップ文字を送信

スタート/ストップ文字を送信する

＜スタート/ストップ文字を送信しない＞

Code 39 の長さの設定

スキャナは、最小長と最大長の間にある長さ（両端を含む）で Code 39 バーコードをデコードするように設定できます。これを有効にするには、最小長と最大長を設定する必要があります。

最小長が最大長より長く設定されている場合、スキャナは最小長または最大長の Code 39 バーコードのみをデコードします。最小長が最大長と同じ場合、その長さの Code 39 バーコードのみがデコードされます。

最小長の設定

最大長の設定

例：8～12 文字の Code 39 のバーコードをデコードするようにスキャナを設定する

1. 「最小長の設定」をスキャンします。
2. 付録の数字バーコードから数値バーコード「8」をスキャンします。
3. 付録の「バーコードの保存/取り消し」の保存バーコードをスキャンします。
4. 「最大長の設定」をスキャンします。
5. 付録の数字バーコードから数字のバーコード 「1」と 「2」をスキャンします。
6. 付録の「保存/取り消しバーコード」の保存バーコードをスキャンします。

チェックデジット検証

＜無効にする＞

検証後にチェックデジットを送信する

検証後にチェックデジットを送信しない

Code 39 Full ASCII の有効/無効

下の適切なバーコードをスキャンすることによって、すべての ASCII 文字を識別するようにスキャナを設定できます。

＜Code 39 Full ASCII を有効にする＞

Code 39 Full ASCII を無効にする

Code 32 を有効/無効にする

Code 32 は、イタリアの製薬業界で使用される Code 39 の変形です。Code 32 を有効または無効にするには、以下の適切なバーコードをスキャンします。このパラメータが機能するには、Code 39 を有効にし、Code 39 のチェックデジットの確認を無効にする必要があります。

＜Code 32 を無効にする＞

Code 32 を有効にする

Code 32 プレフィックス

以下の該当するバーコードをスキャンして、すべての Code 32 バーコードにプレフィックス文字"A"を追加するかどうかを選択します。このパラメータが機能するには、Code 32 を有効にする必要があります。

<Code 32 プレフィックスを無効にする>

Code 32 プレフィックスを有効にする

Code 32 チェックデジットを送信

このパラメータが機能するには、Code 32 を有効にする必要があります。

<Code 32 チェックデジットを送信しない>

Code 32 チェックデジットを送信する

Code 32 スタート/ストップ文字を送信

このパラメータが機能するには、Code 32 を有効にする必要があります。

<Code 32 スタート/ストップ文字を送信しない>

Code 32 スタート/ストップ文字を送信する

Codabar

工場出荷時のデフォルトに戻します

Codabar を工場出荷時のデフォルトに戻す

Codabar を有効/無効にする

＜Codabar を有効にする＞

Codabar を無効にする

チェックデジット検証

＜無効にする＞

検証後にチェックデジットを送信する

検証後にチェックデジットを送信しない

Codabar の長さの設定

スキャナは、最小長と最大長の間にある長さ（両端を含む）で Codabar バーコードをデコードするように設定できます。これを有効にするには、最小長と最大長を設定する必要があります。

最小長が最大長より長く設定されている場合、スキャナは最小長または最大長の Codabar バーコードのみをデコードします。最小長が最大長と同じ場合、その長さの Codabar バーコードのみがデコードされます。

最小長の設定

最大長の設定

例：8～12 文字の Codabar のバーコードをデコードするようにスキャナを設定する

1. 「最小長の設定」をスキャンします。
2. 付録の数字バーコードから数値バーコード「8」をスキャンします。
3. 付録の「バーコードの保存/取り消し」の保存バーコードをスキャンします。
4. 「最大長の設定」をスキャンします。
5. 付録の数字バーコードから数字のバーコード 「1」と 「2」をスキャンします。
6. 付録の「保存/取り消しバーコード」の保存バーコードをスキャンします。

スタート/ストップ文字を送信

スタート/ストップ文字を送信する

<スタート/ストップ文字を送信しない>

スタート/ストップ文字の形式

<スタート/ストップ文字としての ABCD / abcd>

スタート/ストップ文字としての ABCD/TN*E

大文字のスタート/ストップ文字

小文字のスタート/ストップ文字

Code 93

工場出荷時のデフォルトに戻します

Code 93 を工場出荷時のデフォルトに戻す

Code 93 を有効/無効にする

＜Code 93 を有効にする＞

Code 93 を無効にする

チェックデジット検証

無効にする

＜検証後にチェックデジットを送信しない＞

検証後にチェックデジットを送信する

Code 93 の長さの設定

スキャナは、最小長と最大長の間にある長さ（両端を含む）で Code 93 バーコードをデコードするように設定できます。これを有効にするには、最小長と最大長を設定する必要があります。

最小長が最大長より長く設定されている場合、スキャナは最小長または最大長の Code 93 バーコードのみをデコードします。最小長が最大長と同じ場合、その長さの Code 93 バーコードのみがデコードされます。

最小長の設定

最大長の設定

例：8～12 文字の Code 93 のバーコードをデコードするようにスキャナを設定する

1. 「最小長の設定」をスキャンします。
2. 付録の数字バーコードから数値バーコード「8」をスキャンします。
3. 付録の「バーコードの保存/取り消し」の保存バーコードをスキャンします。
4. 「最大長の設定」をスキャンします。
5. 付録の数字バーコードから数字のバーコード 「1」と 「2」をスキャンします。
6. 付録の「保存/取り消しバーコード」の保存バーコードをスキャンします。

GS1-Databar (RSS)

工場出荷時のデフォルトに戻します

GS1-Databar を工場出荷時のデフォルトに戻す

GS1-Databar を有効/無効にする

＜GS1-Databar を有効にする＞

GS1-Databar を無効にする

アプリケーション識別子"01"を送信

＜アプリケーション識別子"01"を送信する＞

アプリケーション識別子"01"を送信しない

Code 11

工場出荷時のデフォルトに戻します

Code 11 を工場出荷時のデフォルトに戻す

Code 11 を有効/無効にする

＜Code 11 を有効にする＞

Code 11 を無効にする

Code 11 の長さの設定

スキャナは、最小長と最大長の間にある長さ（両端を含む）で Code 11 バーコードをデコードするように設定できます。これを有効にするには、最小長と最大長を設定する必要があります。

最小長が最大長より長く設定されている場合、スキャナは最小長または最大長の Code 11 バーコードのみをデコードします。最小長が最大長と同じ場合、その長さの Code 11 バーコードのみがデコードされます。

最小長の設定

最大長の設定

例：8～12 文字の Code 11 のバーコードをデコードするようにスキャナを設定する

1. 「最小長の設定」をスキャンします。
2. 付録の数字バーコードから数値バーコード「8」をスキャンします。
3. 付録の「バーコードの保存/取り消し」の保存バーコードをスキャンします。
4. 「最大長の設定」をスキャンします。
5. 付録の数字バーコードから数字のバーコード 「1」と 「2」をスキャンします。
6. 付録の「保存/取り消しバーコード」の保存バーコードをスキャンします。

チェックデジットを送信

チェックデジットを送信する

<チェックデジットを送信しない>

チェックデジット検証

無効にする

<1 つのチェックデジット、MOD11>

2 つのチェックデジット、MOD11/MOD11

2 つのチェックデジット、MOD11/MOD9

1 つのチェックデジット、MOD11(Len<=10)
2 つのチェックデジット、MOD11/MOD11(Len>10)

1 つのチェックデジット、MOD11(Len<=10)
2 つのチェックデジット、MOD11/MOD9(Len>10)

Plessey

工場出荷時のデフォルトに戻します

Plessey を工場出荷時のデフォルトに戻す

Plessey を有効/無効にする

＜Plessey を有効にする＞

Plessey を無効にする

チェックデジット検証

無効にする

＜検証後にチェックデジットを送信しない＞

検証後にチェックデジットを送信する

Plessey の長さの設定

スキャナは、最小長と最大長の間にある長さ（両端を含む）で Plessey バーコードをデコードするように設定できます。これを有効にするには、最小長と最大長を設定する必要があります。

最小長が最大長より長く設定されている場合、スキャナは最小長または最大長の Plessey バーコードのみをデコードします。最小長が最大長と同じ場合、その長さの Plessey バーコードのみがデコードされます。

最小長の設定

最大長の設定

例：8～12 文字の Plessey のバーコードをデコードするようにスキャナを設定する

1. 「最小長の設定」をスキャンします。
2. 付録の数字バーコードから数値バーコード「8」をスキャンします。
3. 付録の「バーコードの保存/取り消し」の保存バーコードをスキャンします。
4. 「最大長の設定」をスキャンします。
5. 付録の数字バーコードから数字のバーコード 「1」と 「2」をスキャンします。
6. 付録の「保存/取り消しバーコード」の保存バーコードをスキャンします。

MSI-Plessey

工場出荷時のデフォルトに戻します

MSI-Plessey を工場出荷時のデフォルトに戻す

MSI-Plessey を有効/無効にする

＜MSI-Plessey を有効にする＞

MSI-Plessey を無効にする

チェックデジットを送信

チェックデジットを送信する

＜チェックデジットを送信しない＞

チェックデジット検証

無効にする

＜1 つのチェックデジット、MOD10＞

2 つのチェックデジット、MOD10/MOD10

2 つのチェックデジット、MOD10/MOD11

MSI-Plessey の長さの設定

スキャナは、最小長と最大長の間にある長さ（両端を含む）で MSI-Plessey バーコードをデコードするように設定できます。これを有効にするには、最小長と最大長を設定する必要があります。

最小長が最大長より長く設定されている場合、スキャナは最小長または最大長の MSI-Plessey バーコードのみをデコードします。最小長が最大長と同じ場合、その長さの MSI-Plessey バーコードのみがデコードされます。

最小長の設定

最大長の設定

例：8～12 文字の MSI-Plessey のバーコードをデコードするようにスキャナを設定する

1. 「最小長の設定」をスキャンします。
2. 付録の数字バーコードから数値バーコード「8」をスキャンします。
3. 付録の「バーコードの保存/取り消し」の保存バーコードをスキャンします。
4. 「最大長の設定」をスキャンします。
5. 付録の数字バーコードから数字のバーコード 「1」と 「2」をスキャンします。
6. 付録の「保存/取り消しバーコード」の保存バーコードをスキャンします。

PDF 417

工場出荷時のデフォルトに戻します

PDF 417 を工場出荷時のデフォルトに戻す

PDF 417 を有効/無効にする

＜PDF 417 を有効にする＞

PDF 417 を無効にする

PDF 417 の長さの設定

スキャナは、最小長と最大長の間にある長さ（両端を含む）で PDF 417 バーコードをデコードするように設定できます。これを有効にするには、最小長と最大長を設定する必要があります。

最小長が最大長より長く設定されている場合、スキャナは最小長または最大長の PDF 417 バーコードのみをデコードします。最小長が最大長と同じ場合、その長さの PDF 417 バーコードのみがデコードされます。

最小長の設定

最大長の設定

例：8～12 文字の PDF 417 のバーコードをデコードするようにスキャナを設定する

1. 「最小長の設定」をスキャンします。
2. 付録の数字バーコードから数値バーコード「8」をスキャンします。
3. 付録の「バーコードの保存/取り消し」の保存バーコードをスキャンします。
4. 「最大長の設定」をスキャンします。
5. 付録の数字バーコードから数字のバーコード 「1」と 「2」をスキャンします。
6. 付録の「保存/取り消しバーコード」の保存バーコードをスキャンします。

PDF 417 ツインコード

PDF417 ツインコードは、縦または横に平行に並んだ 2 つの PDF417 バーコードです。同じ仕様のバーコード、または逆バーコード同士で、密接に配置しなければいけません。

PDF417 ツインコードを読むための 3 つのオプションがあります：

シングル PDF417 のみ：いずれかの PDF417 コードを読みます。

ツイン PDF417 のみ：両方の PDF417 コードを読みます。

シングル＆ツイン：両方の PDF417 コードを読みます。成功した場合は、ツイン PDF417 としてのみ送信します。

それ以外の場合は、シングル PDF417 のみを試してください。

＜シングル PDF417 のみ＞

ツイン PDF417 のみ

シングル＆ツイン

QR コード

工場出荷時のデフォルトに戻します

QR コードを工場出荷時のデフォルトに戻す

QR コードを有効/無効にする

＜QR コードを有効にする＞

QR コードを無効にする

Micro QR

＜Micro QR を有効にする＞

Micro QR を無効にする

QR コードの長さの設定

スキャナは、最小長と最大長の間にある長さ（両端を含む）で QR コードバーコードをデコードするように設定できます。これを有効にするには、最小長と最大長を設定する必要があります。

最小長が最大長より長く設定されている場合、スキャナは最小長または最大長の QR コードバーコードのみをデコードします。最小長が最大長と同じ場合、その長さの QR コードバーコードのみがデコードされます。

最小長の設定

最大長の設定

例：8～12 文字の QR コードのバーコードをデコードするようにスキャナを設定する

1. 「最小長の設定」をスキャンします。
2. 付録の数字バーコードから数値バーコード「8」をスキャンします。
3. 付録の「バーコードの保存/取り消し」の保存バーコードをスキャンします。
4. 「最大長の設定」をスキャンします。
5. 付録の数字バーコードから数字のバーコード 「1」と 「2」をスキャンします。
6. 付録の「保存/取り消しバーコード」の保存バーコードをスキャンします。

QR ツインコード

QR ツインコードは、縦または横に平行に並んだ 2 つの QR バーコードです。同じ仕様のバーコード、または逆バーコード同士で、密接に配置しなければいけません。

QR ツインコードを読むための 3 つのオプションがあります：

シングル QR のみ：いずれかの QR コードを読みます。

ツイン QR のみ：両方の QR コードを読みます。

シングル＆ツイン：両方の QR コードを読みます。成功した場合は、ツイン QR としてのみ送信します。

それ以外の場合は、シングル QR のみを試してください。

＜シングル QR のみ＞

ツイン QR のみ

シングル＆ツイン

Data Matrix

工場出荷時のデフォルトに戻します

Data Matrix を工場出荷時のデフォルトに戻す

Data Matrix を有効/無効にする

＜Data Matrix を有効にする＞

Data Matrix を無効にする

長方形のバーコード

＜長方形のバーコードを有効にする＞

長方形のバーコードを無効にする

ミラーイメージ

＜ミラーイメージをデコードする＞

ミラーイメージをデコードしない

Data Matrix の長さの設定

スキャナは、最小長と最大長の間にある長さ（両端を含む）で Data Matrix バーコードをデコードするように設定できます。これを有効にするには、最小長と最大長を設定する必要があります。

最小長が最大長より長く設定されている場合、スキャナは最小長または最大長の Data Matrix バーコードのみをデコードします。最小長が最大長と同じ場合、その長さの Data Matrix バーコードのみがデコードされます。

最小長の設定

最大長の設定

例：8～12 文字の Data Matrix のバーコードをデコードするようにスキャナを設定する

1. 「最小長の設定」をスキャンします。
2. 付録の数字バーコードから数値バーコード「8」をスキャンします。
3. 付録の「バーコードの保存/取り消し」の保存バーコードをスキャンします。
4. 「最大長の設定」をスキャンします。
5. 付録の数字バーコードから数字のバーコード 「1」と 「2」をスキャンします。
6. 付録の「保存/取り消しバーコード」の保存バーコードをスキャンします。

Data Matrix ツインコード

Data Matrix ツインコードは、縦または横に平行に並んだ 2 つの Data Matrix バーコードです。同じ仕様のバーコード、または逆バーコード同士で、密接に配置しなければいけません。

Data Matrix ツインコードを読むための 3 つのオプションがあります：

シングル Data Matrix のみ：いずれかの Data Matrix コードを読みます。

ツイン Data Matrix のみ：両方の Data Matrix コードを読みます。

シングル＆ツイン：両方の Data Matrix コードを読みます。成功した場合は、ツイン Data Matrix としてのみ送信します。それ以外の場合は、シングル Data Matrix のみを試してください。

＜シングル Data Matrix のみ＞

ツイン Data Matrix のみ

シングル＆ツイン

Chinese Sensible Code

工場出荷時のデフォルトに戻します

Chinese Sensible Code を工場出荷時のデフォルトに戻す

Chinese Sensible Code を有効/無効にする

Chinese Sensible Code を有効にする

＜Chinese Sensible Code を無効にする＞

Chinese Sensible Code の長さの設定

スキャナは、最小長と最大長の間にある長さ（両端を含む）で Chinese Sensible Code バーコードをデコードするように設定できます。これを有効にするには、最小長と最大長を設定する必要があります。

最小長が最大長より長く設定されている場合、スキャナは最小長または最大長の Chinese Sensible Code バーコードのみをデコードします。最小長が最大長と同じ場合、その長さの Chinese Sensible Code バーコードのみがデコードされます。

最小長の設定

最大長の設定

例：8～12 文字の Chinese Sensible Code のバーコードをデコードするようにスキャナを設定する

1. 「最小長の設定」をスキャンします。
2. 付録の数字バーコードから数値バーコード「8」をスキャンします。
3. 付録の「バーコードの保存/取り消し」の保存バーコードをスキャンします。
4. 「最大長の設定」をスキャンします。
5. 付録の数字バーコードから数字のバーコード 「1」と 「2」をスキャンします。
6. 付録の「保存/取り消しバーコード」の保存バーコードをスキャンします。

第 4 章 プレフィックス&サフィックス

多くのアプリケーションでは、バーコードデータを編集して区別する必要があります。

通常は AIM ID と Code ID を識別子として使用できますが、特別な場合には、キャリッジリターンや改行のような custom プレフィックスと終了文字サフィックスも使用できます。

データの書式設定には次のものがあります。

- デコードされたデータの前に AIM ID / Code ID / custom プレフィックスを付加する
- デコードされたデータの後に custom サフィックスを追加する
- データの最後に終了文字を付加する

バーコードデータを編集するときは、以下のフォーマットを使用できます。

- [Code ID] + [Custom プレフィックス] + [AIM ID] + [データ] + [Custom サフィックス] + [終了文字]

- [Custom プレフィックス] + [Code ID] + [AIM ID] + [データ] + [Custom サフィックス] + [終了文字]

プレフィックスシーケンス

Code ID+Custom プレフィックス+AIM ID

<Custom+Code ID+AIM ID>

Custom プレフィックス

Custom プレフィックスを有効/無効にする

custom プレフィックスを有効にすると、11 文字を超えることのできないユーザー定義プレフィックスをデータに追加することができます。

custom プレフィックスを有効にする

＜custom プレフィックスを無効にする＞

Custom プレフィックスの設定

custom プレフィックスを設定するには、custom プレフィックスの設定バーコードと希望のプレフィックスの 16 進数を表す数値バーコードをスキャンし、保存バーコードをスキャンします。文字の 16 進値については、付録の ASCII 表を参照してください。

注：custom プレフィックスは 11 文字を超えることはできません。

custom プレフィックスの設定

例：custom プレフィックスを「CODE」に設定する

1. ASCII テーブルの「CODE」の 16 進値を確認します。(「CODE」: 43,4F、44,45)
2. 「custom プレフィックスの設定」をスキャンします。
3. 付録の数字バーコードから数値バーコード 「4」、「3」、「4」、「F」、「4」、「4」、「5」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードの保存/取り消し」の保存バーコードをスキャンします。

AIM ID プレフィックス

AIM（Automatic Identification Manufacturers）ID と ISO / IEC 15424 規格は、シンボル識別子とデータキャリア識別子を定義しています。（詳細については、付録の AIM ID テーブルを参照してください。AIM ID プレフィックスが有効な場合、スキャナはデコード後にスキャンされたデータの前にシンボル識別子を追加します。

AIM ID プレフィックスを有効にする

<AIM ID プレフィックスを無効にする>

Code ID プレフィックス

Code ID を使用してバーコードタイプを識別することもできます。AIM ID とは異なり、Code ID はユーザーがプログラムできます。Code ID は、1 つまたは 2 つの英字でのみ構成できます。

Code ID プレフィックスを有効にする

<Code ID プレフィックスを無効にする>

すべての Code ID をデフォルトに戻します

Code ID のデフォルト情報については、付録の Code ID テーブルを参照してください。

すべての Code ID をデフォルトに戻す

Code ID の変更

各シンボルの Code ID は別々にプログラムすることができます。Code ID をプログラムする方法については、次の例を参照してください。

例：PDF417 の Code ID を「p」に設定する

1. ASCII テーブルの「p」の 16 進値を確認します。(「p」: 70)
2. PDF417 の Code ID を変更のバーコードをスキャンします。
3. 数字バーコード「7」と「0」を数字バーコードからスキャンします（付録の 2D スキャナを参照)。
4. 付録の「バーコードの保存/取り消し」の保存バーコードをスキャンします。

PDF417 の Code ID を変更する

Data Matrix の Code ID を変更する

QR コードの Code ID を変更する

Chinese Sensible Code の Code ID を変更する

Code 128 の Code ID を変更する

GS1-128 の Code ID を変更する

AIM-128 の Code ID を変更する

EAN-8 の Code ID を変更する

EAN-13 の Code ID を変更する

UPC-E の Code ID を変更する

UPC-A の Code ID を変更する

ISBN の Code ID を変更する

ISSN の Code ID を変更する

Code 39 の Code ID を変更する

Code 93 の Code ID を変更する

Interleaved 2 of 5 の Code ID を変更する

ITF-14 の Code ID を変更する

ITF-6 の Code ID を変更する

Codabar の Code ID を変更する

Industrial 25 の Code ID を変更する

Standard 25 の Code ID を変更する

Matrix 25 の Code ID を変更する

COOP 25 の Code ID を変更する

Code 11 の Code ID を変更する

Plessey の Code ID を変更する

MSI/Plessey の Code ID を変更する

GS1 Databar の Code ID を変更する

Custom サフィックス

Custom サフィックスを有効/無効にする

custom サフィックスを有効にすると、11 文字を超えることのできないユーザー定義サフィックスをデータに追加することができます。

custom サフィックスを有効にする

＜custom サフィックスを無効にする＞

Custom サフィックスの設定

custom サフィックスを設定するには、custom サフィックスの設定バーコードと希望のサフィックスの 16 進数を表す数値バーコードをスキャンし、保存バーコードをスキャンします。文字の 16 進値については、付録の ASCII 表を参照してください。

注：custom サフィックスは 11 文字を超えることはできません。

Custom サフィックスの設定

例：custom サフィックスを「CODE」に設定する

1. ASCII テーブルの「CODE」の 16 進値を確認します。(「CODE」: 43,4F、44,45)
2. 「Custom サフィックスの設定」をスキャンします。
3. 付録の数字バーコードから数値バーコード 「4」、「3」、「4」、「F」、「4」、「4」、「5」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードの保存/取り消し」の保存バーコードをスキャンします。

終了文字サフィックス

終了文字は、データの終わりを示すために使用できます。これは、後に何も追加できないことを意味します。
終了文字サフィックスには 1～7 文字を使用できます。

終了文字サフィックスを有効/無効にする

終了文字サフィックスを有効/無効にするには、以下の該当するバーコードをスキャンします。

＜終了文字サフィックスを有効にする＞

終了文字サフィックスを無効にする

終了文字サフィックスの設定

スキャナは CR（0x0D）または CRLF（0x0D、0x0A）に終了文字サフィックスを設定し、下の適切なバーコードをスキャンすることで有効にするショートカットを提供します。

＜終了文字 CR（0x0D）＞

終了文字 CRLF（0x0D,0x0A）

終了文字サフィックスを設定するには、「終了文字サフィックスの設定」バーコードと、目的の終了文字の 16 進数値を表す数値バーコードをスキャンしてから、「保存」バーコードをスキャンします。 終了文字の 16 進値については、付録の ASCII 表を参照してください。

注: 終了文字サフィックスは 7 文字を超えることはできません。

終了文字サフィックスの設定

例：終了文字サフィックスを 0x0A に設定する

1. 「終了文字サフィックスの設定」をスキャンします。
2. 付録の数字バーコードから数字のバーコード「0」と「A」をスキャンします。
3. 付録の「バーコードの保存/取り消し」の保存バーコードをスキャンします。

第 5 章　スキャン設定

この章では、環境設定でさまざまなアプリケーションにスキャナを適応させる方法について説明します。例えば、スキャナの視野を狭めて、ユーザーが意図したバーコードのみを読み取るようにする。

デコード領域

全領域デコード

このオプションを有効にすると、スキャナは視野内のバーコードを中央から周辺にデコードしようとし、最初にデコードされたバーコードを送信します。

＜全領域デコード＞

特定エリアデコード

スキャナは、指定されたデコード領域内のバーコードをデコードしようとし、最初にデコードされたバーコードを送信します。このオプションを使用すると、スキャナが視野を狭めて、ユーザが意図したバーコードのみを読み取るようにすることができます。例えば、複数のバーコードが密接に一緒に配置されている場合、適切な所定の復号領域と関連した特定の領域の復号は、所望のバーコードのみが読み取られることを保証します。

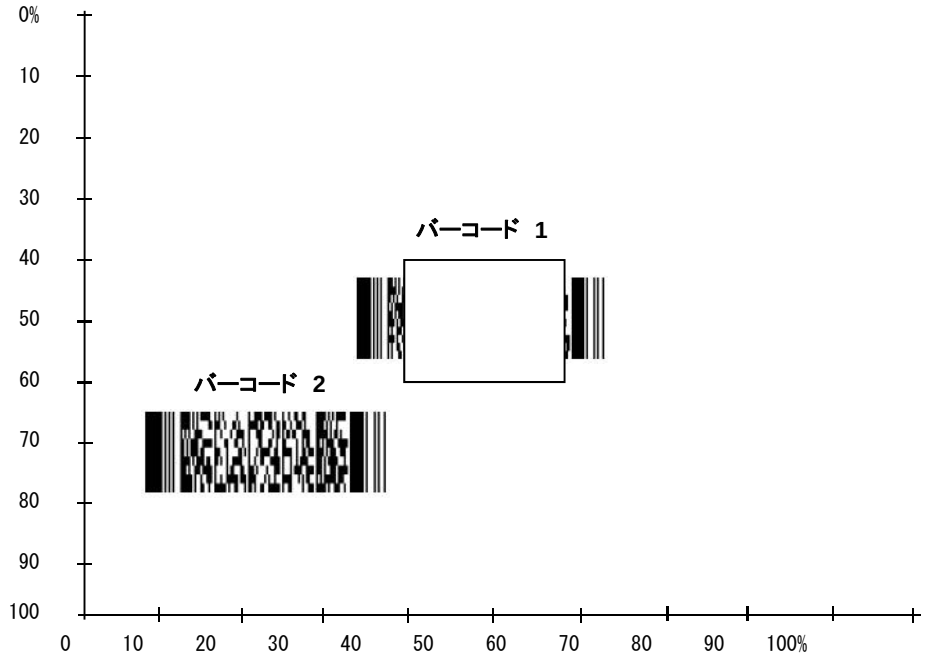
特定エリアデコード

デコード領域を指定する

特定エリアデコードが有効な場合、スキャナはあらかじめ定義されたデコード領域と交差するバーコードのみを読み取ります。

下の図に示すように、デフォルトのデコード領域は、スキャナの視野の上部 40%、下部 60%、左 40%、右 60%の領域です。次の例では、白いボックスがデコード領域です。バーコード 1 は復号領域を通過するので、それが読み取られます。バーコード 2 はデコード領域を通過しないため、読み取られません。

デコード領域の上部、デコード領域の下部、デコード領域の左側、デコード領域の右側、および必要なパーセンテージ（0–100）を表す数値バーコード（s）を使用して、デコード領域を定義することができます。



デコード領域の上部

デコード領域の下部

デコード領域の左側

デコード領域の右側

例：デコード領域を上 20%、下 80%、左 20%、右 80%に設定する：

1. 特定エリアデコードのバーコードをスキャンします。
2. デコード領域の上部のバーコードをスキャンします。
3. 付録の数字バーコードから数字のバーコード「2」と「0」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードの保存/取り消し」の保存バーコードをスキャンします。
5. デコード領域の下部のバーコードをスキャンします。
6. 付録の数字バーコードから数字のバーコード「8」と「0」をスキャンします。
7. 付録の「バーコードの保存/取り消し」の保存バーコードをスキャンします。
8. デコード領域の左側のバーコードをスキャンします。
9. 付録の数字バーコードから数字のバーコード「2」と「0」をスキャンします。
10. 付録の「バーコードの保存/取り消し」の保存バーコードをスキャンします。
11. デコード領域の右側のバーコードをスキャンします。
12. 付録の数字バーコードから数字のバーコード「8」と「0」をスキャンします。
13. 付録の「バーコードの保存/取り消し」の保存バーコードをスキャンします。

付録

工場出荷時のデフォルト表

パラメータ	工場出荷時のデフォルト値	備考
システム設定		
動作モード	Bluetooth モード	
Bluetooth プロファイル	HID	
Bluetooth によるデータ転送	同期伝送	
USB インターフェイスタイプ	USB HID-KBW	
USB 経由のデータ送信	非同期伝送	
データの受信確認	無効	
サウンド通知	有効	
振動通知	無効	
Bluetooth HID の文字間遅延	15ms	
自動パワーオフタイマー	30 分	
製品のシリアル番号	無効	
タイムスタンプ	無効	
日付形式	形式 3: yyyy/mm/dd	
USB 国別キーボードタイプ	英語（米国）	USB HID-KBW
文字エンコーディング	ISO-8859-1	USB HID-KBW
ケースの変換	ケース変換なし	USB HID-KBW
エミュレート Alt + キーパッド	無効	USB HID-KBW
ファンクションキーマッピング	無効	USB HID-KBW
数値キーパッドのエミュレート	無効	USB HID-KBW
コードページ	Windows 1252（ラテン I）	USB HID-KBW
KBW のキー間遅延	3ms	USB HID-KBW

パラメータ		工場出荷時のデフォルト値	備考
プレフィックスシーケンス		Custom プレフィックス+Code ID+AIM ID	
Custom プレフィックス		無効 なし	最大：11 文字
AIM ID プレフィックス		無効	
Code ID プレフィックス		無効	1 または 2 英字
Custom サフィックス		無効 なし	最大：11 文字
終了文字サフィックス		有効 0x0D (CR)	最大：7 文字
スキャン設定			
デコード領域	全領域デコード		
デコード領域を指定する	上 40%、下 60%、左 40%、右 60%		

パラメータ	工場出荷時のデフォルト値	備考
ビデオ反転	無効	すべてのシンボルに適用可能
Code 128		
Code 128	有効	
最大長	127	
最小長	1	
GS1-128 (UCC/EAN-128)		
GS1-128	有効	
最大長	127	
最小長	1	
AIM 128		
AIM 128	有効	
最大長	127	
最小長	1	
EAN-8		
EAN-8	有効	
チェックデジット	送信する	
2 桁のアドオンコード	無効	
5 桁のアドオンコード	無効	
アドオンコード	不要	
EAN-13 に拡張	無効	
EAN-13		
EAN-13	有効	
チェックデジット	送信する	
2 桁のアドオンコード	無効	
5 桁のアドオンコード	無効	
アドオンコード	不要	
290 で始まる EAN-13 にアドオンコードを必要とする	アドオンコードを必要としない	BS8060-2T 用
378/379 で始まる EAN-13 にアドオンコードを必要とする	アドオンコードを必要としない	BS8060-2T 用
414/419 で始まる EAN-13 にアドオンコードを必要とする	アドオンコードを必要としない	BS8060-2T 用
434/439 で始まる EAN-13 にアドオンコードを必要とする	アドオンコードを必要としない	BS8060-2T 用
977 で始まる EAN-13 にアドオンコードを必要とする	アドオンコードを必要としない	BS8060-2T 用
978 で始まる EAN-13 にアドオンコードを必要とする	アドオンコードを必要としない	BS8060-2T 用
979 で始まる EAN-13 にアドオンコードを必要とする	アドオンコードを必要としない	BS8060-2T 用
ISSN		
ISSN	無効	
2 桁のアドオンコード	無効	
5 桁のアドオンコード	無効	
アドオンコード	不要	

ISBN		
ISBN	有効	
ISBN の形式	ISBN-13	
2 桁のアドオンコード	無効	
5 桁のアドオンコード	無効	
アドオンコード	不要	
UPC-E		
UPC-E	有効	
チェックデジット	送信する	
2 桁のアドオンコード	無効	
5 桁のアドオンコード	無効	
アドオンコード	不要	
UPC-A に拡張する	無効	
システム文字「0」	送信する	
UPC-A		
UPC-A	有効	
チェックデジット	送信する	
2 桁のアドオンコード	無効	
5 桁のアドオンコード	無効	
アドオンコード	不要	
システム文字	送信する	
国コード	送信しない	
Interleaved 2 of 5		
Interleaved 2 of 5	有効	
チェックデジット検証	無効	
チェックデジット	送信しない	
最大長	100	
最小長	6	
ITF-6		
ITF-6	無効	
チェックデジット	送信しない	
ITF-14		
ITF-14	有効	
チェックデジット	送信しない	
Matrix 2 of 5		
Matrix 2 of 5	無効	
チェックデジット検証	無効	
チェックデジット	送信しない	

最大長	127	
最小長	6	
Industrial 25		
Industrial 25	有効	
チェックデジット検証	無効	
チェックデジット	送信しない	
最大長	127	
最小長	6	
Standard 25		
Standard 25	有効	
チェックデジット検証	無効	
チェックデジット	送信しない	
最大長	127	
最小長	6	
Code 39		
Code 39	有効	
チェックデジット検証	無効	
チェックデジット	送信しない	
スタート/ストップ文字	送信しない	
Code 39 Full ASCII	有効	
Code 32	無効	BS8060-2T 用
Code 32 プレフィックス	無効	BS8060-2T 用
Code 32 チェックデジット	送信しない	BS8060-2T 用
Code 32 スタート/ストップ文字	送信しない	BS8060-2T 用
最大長	127	
最小長	2	
Codabar		
Codabar	有効	
チェックデジット検証	無効	
チェックデジット	送信しない	
スタート/ストップ文字	送信しない	
スタート/ストップ文字の形式	ABCD/ABCD	
最大長	127	
最小長	2	
Code 93		
Code 93	有効	
チェックデジット検証	有効	
チェックデジット	送信しない	
最大長	127	

最小長	3	
Code 11		
Code 11	有効	
チェックデジット検証	有効 1 つのチェックデジット、MOD11	
チェックデジット	送信しない	
最大長	127	
最小長	2	
Plessey		
Plessey	有効	
チェックデジット検証	有効	
チェックデジット	送信しない	
最大長	127	
最小長	1	
MSI-Plessey		
MSI-Plessey	有効	
チェックデジット検証	有効 1 つのチェックデジット、MOD10	
チェックデジット	送信しない	
最大長	127	
最小長	2	
PDF417		
PDF417	有効	
最大長	2710	
最小長	1	
PDF 417 ツインコード	シングル PDF417 のみ読む	
QR コード		
QR コード	有効	
Micro QR	有効	
最大長	7089	
最小長	1	
QR ツインコード	シングル QR のみ読む	
Data Matrix		
Data Matrix	有効	
長方形のバーコード	有効	
ミラーイメージ	デコード	
最大長	3116	
最小長	1	

DM ツインコード	シングル DM のみ読む	
Chinese Sensible Code		
Chinese Sensible Code	無効	
最大長	7827	
最小長	1	

数字バーコード

0 ～ 9

0

5

1

6

2

7

3

8

4

9

A ～ F

A

B

C

D

E

F

バーコードの保存/取り消し

数字のバーコードを読み取ったら、保存するために保存バーコードをスキャンする必要があります。 間違った数字をスキャンした場合は、取り消しバーコードをスキャンして設定をもう一度やり直すか、最後の数字を削除するバーコードをスキャンして正しい数字をスキャンするか、すべての数字を削除するバーコードをスキャンしてから任意の数字をスキャンします。

たとえば、「最大長の設定」バーコードと数字バーコード「1」、「2」、「3」を設定した場合、次のようにスキャンします。

- ✧ 最後の数字を削除する：最後の数字「3」が削除されます。
- ✧ すべての数字を削除する： すべての数字「123」が削除されます。
- ✧ 取り消し：最大長の設定は取り消されます。 スキャナはまだセットアップモードになっています。

保存

最後の数字を削除する

すべての数字を削除する

取り消し

AIM ID テーブル

シンボル	AIM ID	備考
EAN-13	]E0	標準 EAN-13
	]E3	EAN-13 + 2/5 桁アドオンコード
EAN-8	]E4	標準 EAN-8
	]E4…]E1…	EAN-8 + 2 桁アドオンコード
	]E4…]E2…	EAN-8 + 5 桁アドオンコード
UPC-E	]E0	標準 UPC-E
	]E3	UPC-E + 2/5 桁アドオンコード
UPC-A	]E0	標準 UPC-A
	]E3	UPC-A + 2/5 桁アドオンコード
Code 128	]C0	標準 Code 128
GS1-128 (UCC/EAN-128)	]C1	FNC1 はスタート文字の直後の文字です
AIM-128	]C2	FNC1 はスタート文字の後の 2 文字目です
ISBT-128	]C4	
Interleaved 2 of 5	]I0	チェックデジット検証をしない
	]I1	検証後にチェックデジットを送信する
	]I3	検証後にチェックデジットを送信しない
ITF-6	]I1	チェックデジットを送信する
	]I3	チェックデジットを送信しない
ITF-14	]I1	チェックデジットを送信する
	]I3	チェックデジットを送信しない
Industrial 2 of 5	]S0	指定なし
Standard 2 of 5	]R0	チェックデジット検証をしない
	]R8	MOD10; チェックデジットを送信しない
	]R9	MOD10; チェックデジットを送信する
Code 39	]A0	バーコードをそのまま送信します ; Full ASCII 無効 ; チェックデジット検証をしない
	]A1	MOD43; チェックデジットを送信する
	]A3	MOD43; チェックデジットを送信しない
	]A4	Full ASCII 有効; チェックデジット検証をしない
	]A5	Full ASCII 有効; チェックデジットを送信する
	]A7	Full ASCII 有効; チェックデジットを送信しない
Codabar	]F0	標準 Codabar
	]F2	検証後にチェックデジットを送信する
	]F4	検証後にチェックデジットを送信しない
Code 93	]G0	標準 Code 93
Code 11	]H0	MOD11; チェックデジットを送信する
	]H1	MOD11/MOD11; チェックデジットを送信する
	]H3	検証後にチェックデジットを送信しない
	]H9	チェックデジット検証をしない

GS1-DataBar (RSS)	]e0	標準 GS1-DataBar
Plessey	]P0	標準 Plessey
MSI-Plessey	]M0	MOD10; チェックデジットを送信する
	]M1	MOD10; チェックデジットを送信しない
	]M7	MOD10/ MOD11; チェックデジットを送信しない
	]M8	MOD10/ MOD11; チェックデジットを送信する
	]M9	チェックデジット検証をしない
Matrix 2 of 5	]X0	メーカー指定
	]X1	チェックデジット検証をしない
	]X2	MOD10; チェックデジットを送信する
	]X3	MOD11; チェックデジットを送信しない
ISBN	]X4	標準 ISBN
ISSN	]X5	標準 ISSN
PDF417	]L0	1994 年の PDF417 仕様に準拠
Data Matrix	]d0	ECC000 - ECC140
	]d1	ECC200
	]d2	ECC200, FNC1 は、スタート文字の後の 1 番目または 5 番目の文字です
	]d3	ECC200, FNC1 はスタート文字の後の 2 番目または 6 番目の文字です
	]d4	ECC200, ECI が含まれています
	]d5	ECC200, FNC1 はスタート文字の後の 1 番目または 5 番目の文字で、ECI が含まれています
	]d6	ECC200, FNC1 はスタート文字の後の 2 番目または 6 番目の文字で、ECI が含まれています
QR コード	]Q0	QR1
	]Q1	2005 年版、ECI 除外
	]Q2	2005 年版、ECI を含む
	]Q3	QR コード 2005、ECI 除外、FNC1 はスタート文字の後の最初の文字です
	]Q4	QR コード 2005、ECI、FNC1 はスタート文字の後の最初の文字です
	]Q5	QR コード 2005、ECI 除外、FNC1 はスタート文字の後の 2 文字目です
	]Q6	QR コード 2005、ECI、FNC1 はスタート文字の後の 2 文字目です
Chinese Sensible Code	]X0	

参照：ISO / IEC 15424：2008 情報技術 - 自動識別およびデータキャプチャ技術 - データキャリア識別子（記号識別子を含む）。

コード ID テーブル

シンボル	コード ID
Code 128	j
GS1-128(UCC/EAN-128)	j
AIM-128	f
EAN-8	d
EAN-13	d
ISSN	n
ISBN	B
UPC-E	c
UPC-A	c
Interleaved 2 of 5	e
ITF-6	e
ITF-14	e
Matrix 2 of 5	v
Industrial 2 of 5	D
Standard 2 of 5	s
Code 39	b
Codabar	a
Code 93	i
Code 11	H
Plessey	p
MSI-Plessey	m
GS1 Databar	R
PDF417	r
QR コード	Q
Data Matrix	u
Chinese Sensible Code	h

ASCII テーブル

Hex	Dec	Char
00	0	NUL (Null char.)
01	1	SOH (Start of Header)
02	2	STX (Start of Text)
03	3	ETX (End of Text)
04	4	EOT (End of Transmission)
05	5	ENQ (Enquiry)
06	6	ACK (Acknowledgment)
07	7	BEL (Bell)
08	8	BS (Backspace)
09	9	HT (Horizontal Tab)
0a	10	LF (Line Feed)
0b	11	VT (Vertical Tab)
0c	12	FF (Form Feed)
0d	13	CR (Carriage Return)
0e	14	SO (Shift Out)
0f	15	SI (Shift In)
10	16	DLE (Data Link Escape)
11	17	DC1 (XON) (Device Control 1)
12	18	DC2 (Device Control 2)
13	19	DC3 (XOFF) (Device Control 3)
14	20	DC4 (Device Control 4)
15	21	NAK (Negative Acknowledgment)
16	22	SYN (Synchronous Idle)
17	23	ETB (End of Trans. Block)
18	24	CAN (Cancel)
19	25	EM (End of Medium)
1a	26	SUB (Substitute)
1b	27	ESC (Escape)
1c	28	FS (File Separator)
1d	29	GS (Group Separator)

Hex	Dec	Char
1e	30	RS (Request to Send)
1f	31	US (Unit Separator)
20	32	SP (Space)
21	33	! (Exclamation Mark)
22	34	″ (Double Quote)
23	35	# (Number Sign)
24	36	$ (Dollar Sign)
25	37	% (Percent)
26	38	& (Ampersand)
27	39	` (Single Quote)
28	40	((Left/ Opening Parenthesis)
29	41	) (Right / Closing Parenthesis)
2a	42	* (Asterisk)
2b	43	+ (Plus)
2c	44	, (Comma)
2d	45	- (Minus / Dash)
2e	46	. (Dot)
2f	47	/ (Forward Slash)
30	48	0
31	49	1
32	50	2
33	51	3
34	52	4
35	53	5
36	54	6
37	55	7
38	56	8
39	57	9
3a	58	: (Colon)
3b	59	; (Semi-colon)
3c	60	< (Less Than)
3d	61	= (Equal Sign)

Hex	Dec	Char
3e	62	> (Greater Than)
3f	63	? (Question Mark)
40	64	@ (AT Symbol)
41	65	A
42	66	B
43	67	C
44	68	D
45	69	E
46	70	F
47	71	G
48	72	H
49	73	I
4a	74	J
4b	75	K
4c	76	L
4d	77	M
4e	78	N
4f	79	O
50	80	P
51	81	Q
52	82	R
53	83	S
54	84	T
55	85	U
56	86	V
57	87	W
58	88	X
59	89	Y
5a	90	Z
5b	91	[(Left / Opening Bracket)
5c	92	¥ (Back Slash)
5d	93	] (Right / Closing Bracket)

Hex	Dec	Char
5e	94	^ (Caret / Circumflex)
5f	95	_ (Underscore)
60	96	' (Grave Accent)
61	97	a
62	98	b
63	99	c
64	100	d
65	101	e
66	102	f
67	103	g
68	104	h
69	105	i
6a	106	j
6b	107	k
6c	108	l
6d	109	m
6e	110	n
6f	111	o
70	112	p
71	113	q
72	114	r
73	115	s
74	116	t
75	117	u
76	118	v
77	119	w
78	120	x
79	121	y
7a	122	z
7b	123	{ (Left/ Opening Brace)
7c	124	| (Vertical Bar)
7d	125	} (Right/Closing Brace)
7e	126	~ (Tilde)
7f	127	DEL (Delete)

ASCII ファンクションキーマッピングテーブル

ASCII ファンクション	ASCII 値 (HEX)	ファンクションキーマッピングなし	ファンクションキーマッピング
NUL (Null char.)	00	Null	Ctrl+2
SOH (Start of Header)	01	Keypad Enter	Ctrl+A
STX (Start of Text)	02	Caps Lock	Ctrl+B
ETX (End of Text)	03	Null	Ctrl+C
EOT (End of Transmission)	04	Null	Ctrl+D
ENQ (Enquiry)	05	Null	Ctrl+E
ACK (Acknowledgment)	06	Null	Ctrl+F
BEL (Bell)	07	Enter	Ctrl+G
BS (Backspace)	08	Left Arrow	Ctrl+H
HT (Horizontal Tab)	09	Horizontal Tab	Ctrl+I
LF (Line Feed)	0A	Down Arrow	Ctrl+J
VT (Vertical Tab)	0B	Vertical Tab	Ctrl+K
FF (Form Feed)	0C	Delete	Ctrl+L
CR (Carriage Return)	0D	Enter	Ctrl+M
SO (Shift Out)	0E	Insert	Ctrl+N
SI (Shift In)	0F	Esc	Ctrl+O
DLE (Data Link Escape)	10	F11	Ctrl+P
DC1 (XON) (Device Control 1)	11	Home	Ctrl+Q
DC2 (Device Control 2)	12	Print Screen	Ctrl+R
DC3 (XOFF) (Device Control 3)	13	Backspace	Ctrl+S
DC4 (Device Control 4)	14	tab+shift	Ctrl+T
NAK (Negative Acknowledgment)	15	F12	Ctrl+U
SYN (Synchronous Idle)	16	F1	Ctrl+V
ETB (End of Trans. Block)	17	F2	Ctrl+W
CAN (Cancel)	18	F3	Ctrl+X
EM (End of Medium)	19	F4	Ctrl+Y
SUB (Substitute)	1A	F5	Ctrl+Z
ESC (Escape)	1B	F6	次の表を参照してください
FS (File Separator)	1C	F7	
GS (Group Separator)	1D	F8	
RS (Request to Send)	1E	F9	
US (Unit Separator)	1F	F10	

ASCII ファンクションキーマッピングテーブル（続き）

前の表の最後の 5 文字のファンクションキーのマッピングは、キーボードレイアウトによって異なります。

国/ キーボードレイアウト	ファンクションキーマッピング				
	1B	1C	1D	1E	1F
アメリカ	Ctrl+[	Ctrl+¥	Ctrl+]	Ctrl+6	Ctrl+–
ベルギー	Ctrl+[	Ctrl+<	Ctrl+]	Ctrl+6	Ctrl+–
スカンジナビア	Ctrl+8	Ctrl+<	Ctrl+9	Ctrl+6	Ctrl+–
フランス	Ctrl+^	Ctrl+8	Ctrl+$	Ctrl+6	Ctrl+=
ドイツ		Ctrl+Ã	Ctrl++	Ctrl+6	Ctrl+–
イタリア		Ctrl+¥	Ctrl++	Ctrl+6	Ctrl+–
スイス		Ctrl+<	Ctrl+.	Ctrl+6	Ctrl+–
イギリス	Ctrl+[	Ctrl+¢	Ctrl+]	Ctrl+6	Ctrl+–
デンマーク	Ctrl+8	Ctrl+¥	Ctrl+9	Ctrl+6	Ctrl+–
ノルウェー	Ctrl+8	Ctrl+¥	Ctrl+9	Ctrl+6	Ctrl+–
スペイン	Ctrl+[	Ctrl+¥	Ctrl+]	Ctrl+6	Ctrl+–